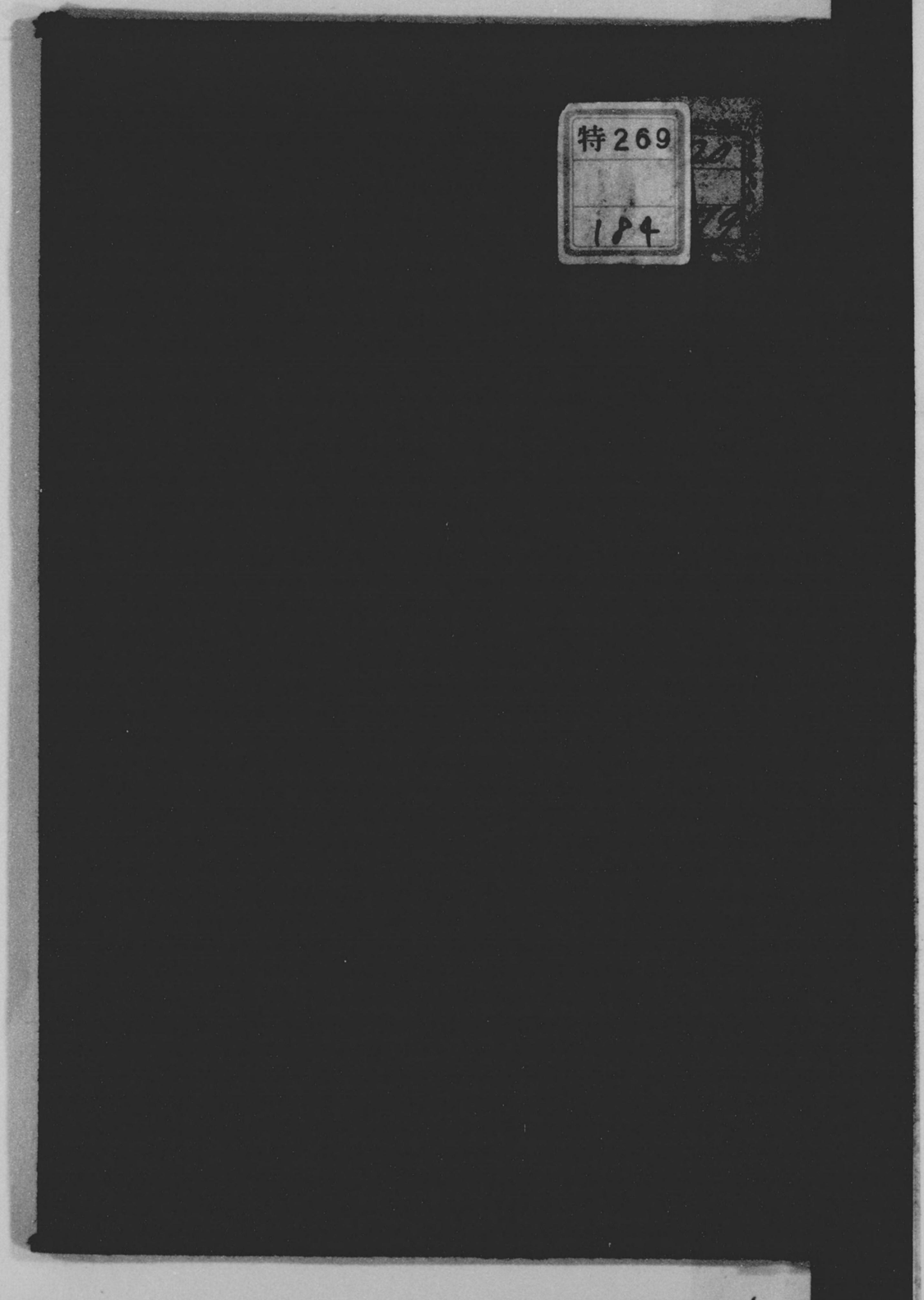


0009342000

0009342-000

特２６９－１８４

丸亀市例規

〔丸亀市〕

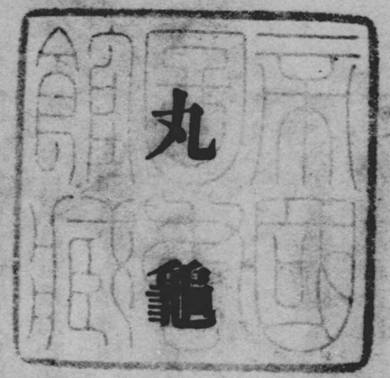
〔昭和４〕

ABI

北250 20
184 79

九龍市制規

符269
184



丸龜市例規

丸龜市例規類集目次

第一類　公告

一、市役所關係　一

二、公告式施行條例　三

一、公告式新聞指定　五

第二類　市會及市參事會

一、丸龜市會々議規則　一

一、市會議員選擧區條例　七

一、丸龜市會傍聽人取締規則　九

一、丸龜市參事會委任事項　一一

第三類　市吏員職制

一、市吏員休職規程　一三
一、行政區及區長設置規程　一九

第四類　委員

一、學務委員條例　二三
一、市區計畫調查委員規程　二七
一、臨時港灣調查委員規程　三一
一、市營住宅建築委員規程　三五
一、九龍市職業紹介所委員規程　三七
一、九龍市水道委員規程　三九

第五類　廳規

一、處務規程　四一
一、執務時間　四三
一、休暇日　四七
一、暑中執務　四九
一、市內出張申告　五一
一、助役代理決裁事項　五五
一、使丁監督規程　五七
一、給仕使丁服務心得　五九
一、給仕使丁休暇日　六一
一、收入役身元保證規程　六三
一、印鑑條例　六五
一、埋火葬願取扱ノ件　六九

一、宿直勤務中傳染病發生屆取扱ノ件 五七

第六類 給與

一、退隱料條例 一七
一、退隱料受給者心得 二一
一、退職給與條例 二五
一、市吏員人員給料規程 二七
一、吏員俸給支給規則 三三
一、旅費支給規程 三五
一、市醫規程 三七
一、外勤吏員手當支給規程 三九
一、公園監視滑機巡視服制 四一
一、被服貸與規程 四三
一、傳染病救治手當規程 四三
一、九龍消防組員及水防組員臨時手當 四五
一、九龍消防組員（給與被服保存期間 四五
一、給仕使丁常雇人夫等一時給與規程 四七
一、名譽職員費用辨償並旅費支給規程 四九
一、水道係備人諸給與規程 五一

第七類 財務

一、學校基本財產蓄積條例 五三
一、市有不動產管理規程 五三
一、物品購入規程 五五

一、市金庫ヨリ徴スル擔保ノ種類價格及程度　九
一、九龍市財務取扱規程　一一
一、物品賣却貸與入札規程　五七
一、書附物件處分規程　六一
一、九龍市營住宅貸與規則　六三
一、御成婚記念九龍市都市改良基本財產蓄積條例　六七
一、九龍市奬學資金蓄積規程　六九
一、徴稅令書等ニ用フル市長日付印　七一
一、九龍市水道公債條例　七三
一、市金庫事務取扱銀行　七九
一、城北尋常小學校設備資金蓄積並ニ管理規程　八一
一、菩川縣九龍市港灣修築費公債條例　八二

第八類　學務

一、九龍市立九龍商業學校學則　一七
一、九龍市立九龍實踐商工學校學則　二三
一、九龍市六鄕村農業補習學校學則　二十
一、九龍市第一青年訓練所所則　三九
一、九龍市第二青年訓練所所則　三十

第九類　使用料、手數料、市稅及賦課徴收

一、徴收金督促條例　一
一、手數料徴收條例　三
一、屠場使用料條例　五
一、共葬墓地使用料條例　七

目次

一、特別稅電柱稅條例　九
一、特別消費稅條例　一一
一、特別消費稅條例施行細則　一三
一、特別消費稅停止條例　一七
一、授業料並ニ保育料徵收規程　一九
一、市稅徵收期限　二一
一、共同荷揚場使用料條例　二三
一、共同荷揚場使用料條例施行細則　二七
一、記念館使用料條例　二九
一、九龜市公設市場使用料條例　三一
一、道路占用規程　三三
一、特別稅電氣扇稅條例　三九
一、特別稅電氣扇稅條例施行細則　四一

一、臨港金徵收規程　四三
一、九龜市水道給水條例　四五
一、同　施行細則　六三
一、特別稅戸數割條例　九三
一、同　觀覽稅條例　一〇一
一、同　觀覽稅條例施行細則　一〇五
一、縣稅遊興稅附加稅徵收規程　一〇七
一、手數料ノ納額告知書發行ノ件　一〇九
一、縣稅家屋稅賦課規程　一一一
一、縣稅家屋稅敷地地位等級　一一七
一、特別稅埋築免租地反別割條例　一三五
一、特別稅電柱稅停止條例　一三七
一、特別稅埋築免租地反別割條例施行細則　一三九

一、九龍市道路工事費負擔規程 一四一
一、同 施行細則 一四七

第十類 衛生土木

一、傳染病患者及隔離者救護規程 一
一、屠場管理規程 五
一、共葬墓地取締規程 七
一、掃除監視吏員出勤時間並ニ休暇規程 一二
一、便所汲取規程 一三
一、汚物掃除運搬處分方法順序 一五
一、掃除監督長ノ職務 二二

一、掃除監督ノ職務 二七
一、掃除巡視ノ職務 三一
一、工事監督規程 三五
一、工事執行規程 四一
一、工事執行細則 四三
一、共同荷揚場上屋管理規程 四六

第十一類 雜則

一、九龍市功勞者表彰規程 一三
一、職工雇人獎勵規程 一五
一、納稅獎勵金交付規程 一七
一、公設市場規程 一七

目　次

一、九龍市職業紹介所規程　九
一、九龍市徽章竝ニ非常用提灯等　一一
一、稅務事務外勤書記徽章　一三
一、龍山公園內禁止條件　一五
一、九龍市消防組組織　一七
一、九龍市統計調查規程　一九
一、九龍市度量衡竝ニ計量取締規程　二一
一、九龍市公用船舶竝ニ水上標示旗　二三
一、告　諭　二五
一、明治天皇行幸記念日ニ關スル件　三九

第一號公告

開廳

九龍市役所ハ明治三十二年四月一日開廳ス

市條例ノ部

公告式施行條例

（明治三十三年一月二十四日條例第二號）

（改正）明治四十五年三月二十六日條例第十五號

（改正）大正九年七月十六日條例第三十六號

第一條　本市ニ公示スヘキ事件ハ本縣令公布式新聞紙ニ登載又ハ掲示場ニ掲示スルヲ以テ公告式トス

登載スル新聞紙及掲示場ハ市長之ヲ定メ別ニ告示ス

第二條　公示ノ事件新聞紙ヲ以テスルモノハ登載ノ日ヨリ掲示ヲ以テスルモノハ掲示ノ日ヨリ施行期日ヲ定メタルモノ、外三日ヲ以テ施行期日トス

公告式施行條例ニ依リ登載スル新聞紙ノ件

（明治三十三年十一月告示第六十號）

大正九年八月二日告示第五十五號
大正十年四月十四日告示第十三號
（改正）大正十二年五月二十五日告示第四十號
大正十三年四月十五日告示第二十五號
昭和二年十二月二十六日告示第七十五號

本市公告式施行條例第一條ニ依リ登載スル新聞紙及掲示場左ノ通リ定ム

新聞紙　四國民報　香川新報

掲示場　市役所前掲示場　風袋町汐入橋掲示場　北平山町掲示場
中府掲示場　今津字道下掲示場　今津字天滿掲示場
鹽屋掲示場　津森掲示場　上金倉掲示場

第二編　市會及市參事會

丸龜市會々議規則

（明治三十二年五月十二日決定）
（改正）明治四十四年十月十四日告示第四十一號

第一章　會議

第一條　會議ノ時間竝ニ議事ノ終始ハ議長之ヲ定ム

第二條　會議ノ終始ハ振鈴ヲ以テ之ヲ報ス

第三條　會議開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其席ニ着キ會議ヲ開クコトヲ宣告ス議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議題ニ付發言スルヲ得ス

第四條　會議ヲ始ムル時ハ議長ハ先ツ議題ヲ宣告シ書記ヲシテ其議案ヲ朗讀セシム

但議長ハ便宜朗讀ヲ省略スルコトヲ得

第五條　議長ハ當日會議ノ終リニ於テ次會ノ議事日程ヲ議會ニ報告スヘシ

第六條　緊急動議ヲ起スモノアルトキ又ハ議長自ラ緊急ト認ムル事件アルトキハ討論ヲ用ヒスシテ會議ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第七條　議題ニ對シ發言スル者ナキトキハ議長原案ニ異議ナキモノトシ其旨ヲ宣告スルコト

ヲ得

第八條　議事ハ三讀會ヲ經テ議決ス但議長ハ會議ニ諮リ讀會ヲ省略スルコトヲ得

第九條　第一讀會ニ於テハ議案ノ大體ニ付討論シタル後第二讀會ノ開否ヲ決スヘシ若シ委員ニ附託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其議案ヲ廢棄シタルモノトス

第十條　第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條審議スヘシ

第十一條　議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ合セ或ハ一ヲ分チテ議題トナスコトヲ得

第十二條　議案ハ委員ニ附託シテ審査スシムルコトヲ得

第十三條　第三讀會ニ於テハ議案全體ニ付可否ヲ決スヘシ

第十四條　動議又ハ建議ヲ爲サントスルモノハ議席ニ於テ之ヲ陳述シ又ハ案ヲ具シテ議長ニ提出スヘシ

第十五條　動議ニ讀會迄ハ一名以上三讀會ニ於テハ三名以上ノ贊成者アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

但市長ヨリ參事會ノ意見トシテ提出シタルモノ及第三十三條ノ報告ハ直チニ議題トナスヘシ

第十六條　建議ハ二名以上ノ贊成者アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十七條　同一議題ニ付數個ノ修正案提出セラレタル場合ニハ議長ハ原案ニ最モ異ナルモノヨリ順次採決スヘシ

修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ付テ採決スヘシ

第十八條　原案及修正案共ニ過半數ノ贊成者ナキ時ニ當リ會議ニ於テ廢棄スヘカラサルモノト議決シタルトキハ特ニ委員ヲシテ其案ヲ起サシメ會議ニ付スルコトヲ得

第二章　發言

第十九條　議員ハ議長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ發言スルヲ得ス

第二十條　發言セストスル者ハ起立シテ議長ヲ呼ヒ次ニ自己ノ番號ヲ呼フヘシ

第二十一條　議事中ハ議員ノ氏名ヲ稱ヘスシテ番號ヲ用フヘシ

第二十二條　發言ハ總テ議長ニ向ヒ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　討論ハ議題外ニ渉ルヲ得ス

第二十四條　議論冗長ニ渉リ若クハ無用ノ說ト認ムルトキハ議長ハ之ヲ制止スルコトヲ得

第二十五條　議長討論既ニ盡キタリト認ムルトキハ可否ヲ決スヘシ

第二十六條　發言者未タ盡スト雖モ議員ハ討論終結ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此場合ニ於テハ議長ハ會議ニ諮ヒ討論ヲ用ヒスシテ之ヲ決スヘシ

第二十七條　議長自ラ討論ニ與カラントスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席ニ着キ副議長ヲシテ議長席ニ着カシムヘシ

但其意見ヲ述ヘ終ルトキハ直ニ議長席ニ復スヘシ

第二十八條　議長採決セントスルトキハ其議題ヲ議會ニ宣告スヘシ

前項ノ宣告アリタル後ハ何人モ議題ニ付發言スルヲ得ス

第二十九條　議長採決セントスルトキハ可否ヲ決スルノ法ハ起立、擧手、投票ノ三種トシ議長適宜ニ之ヲ用フヘシ

第三章　委員

第三十條　議案ノ審査ヲ附託スル爲メ委員ヲ設クルトキハ投票ニ依リ之ヲ定ム

但會議ノ議決ニ依リ議長ノ指名ニ委スルコトヲ得

第三十一條　委員ハ委員長ヲ互選スヘシ

第三十二條　委員ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

但三分ノ一以上ノ同意者アル問題ハ小數意見トシテ議會ニ報告スルコトヲ得

第三十三條　委員長ハ審査ノ結果ヲ議會ニ報告スヘシ

第四章　雜則

第三十四條　議席ニハ番號ヲ付シ議員ノ席次ハ總選擧毎ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　議席ニ列スル者ハ着袴若クハ洋服ヲ着用スヘシ

第三十六條　議員缺席セントスルトキハ議長開會長刻迄ニ其事由ヲ議長ニ屆出ツヘシ

第三十七條　議員遲參シタルトキハ議長ノ許可ヲ得テ議席ニ着クヘシ

第三十八條　會議中議員ハ議長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ離席スルコトヲ得ス

第三十九條　議席ニ列スル者ハ議事中喫煙ヲナスコトヲ得ス

第四十條　本規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但會議ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第四十一條　市會ハ市制及本規則ニ違背シタル議員ニ對シ市制第六十三條第二項ノ制裁ヲ加フルコトヲ得

市會議員選擧區條例

（大正七年二月十八日條例第二十八號）
（大正十年九月八日條例第三十九號）

第一條　市制第十六條ニ依リ市會議員選擧區ヲ分テ二區トス其區域左ノ如シ

第一區

笹區ニ屬スル部分ヲ除ク外全部

第二區

津森（三軒家筋ヲ除ク）今津、堤屋、新田、上金倉、下金倉

第二條　各選擧區ヨリ選出スル議員ノ數左ノ如シ

第一區　一級十一名　二級十二名

第二區　一級四名　二級三名

第三條　議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ解任ヲ要スル者アルトキハ其數ヲ各選擧區ニ平分ス但シ解任者一名ナルトキ又ハ之ヲ平分シ難キトキ內一名ハ第一區ニ於テ解任スルモノトス

前項ニ依リ解任スル者ノ數ハ各選擧區ニ於テ更ニ之ヲ各等級ニ平分ス若シ平分シ難キトキ

ハ市長抽籤シテ其等級ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ增員ヲ要スルトキハ前二項ヲ準用シ選擧區及等級ヲ定ム

選擧區又ハ其配當議員數ニ變更アリタル場合ニ於テモ議員定數ニ異動ナキトキハ既ニ選出セラレタル議員ハ改選期ニ至ラサレハ其效力ヲ失フコトナシ

附　則

第四條　本條例ハ次ノ改選期ヨリ之ヲ施行ス

丸龜市會傍聽人取締規則

（明治四十四年十月十四日告示第四十二號）

第一條　會議ヲ傍聽セントスルモノハ住所氏名ヲ受附係ニ告ケ入場スヘシ

第二條　左ノ事項ニ該當スルモノハ入場ヲ許サス

一　擧動怪ムヘキ者

一　未成年者

一　異樣ノ服裝ヲ爲ス者

一　戎器凶器ヲ携帶シタル者

一　酩酊シタル者

一　瘋癲白痴ト認ムル者

第三條　傍聽人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ渉リ其他會議ノ妨害ヲ爲ス可カラス

一　如何ナル事由アルモ議席ニ入ル可カラス

一　帽子又ハ外套襟卷ノ類ヲ着ス可カラス

一　傘杖ノ類携帯ス可カラス

一　議事中喫煙ヲナス可カラス

第四條　議長ニ於テ必要ト認ムルトキハ傍聽人ヲ入場ヲ拒絶シ又ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

丸龜市參事會委任事項

（明治四十四年十月十四日告示第四十號）

（改正）大正元年十一月十五日告示第二十四號

市制第四十三條ニ依リ市會ハ左記事項ヲ市參事會ニ委任ス

但市會開會中ハ此限リニ在ラス

一、豫定價格百圓以下ノ不動產ノ處分及取得ニ關スル事

二、官有地無償讓受ノ事

三、特別ノ事情アル者ニ限リ市稅ノ減免ニ關スル事

四、金額貳百圓以下既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス事

五、歲出豫算各項ノ金額流用ノ事

六、官廳ノ指示ニ依リ市會議決ノ要旨ヲ變更セサル範圍內ニ於テ市會議決事項ニ關スル字句ヲ修正スルコト

第三類　市吏員職制

市吏員休職規程

（明治三十七年五月五日告示第十五號）

（改正）大正元年八月十八日

第一條　市吏員中戰後備ニ軍籍ヲ有シ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルモノハ其間休職ヲ命スルコトヲ得

第二條　一般吏員ト雖モ在職中當廳事務ノ都合其他疾病等ノ事故ニ因リ其吏員ニ休職ヲ命スルコトヲ得

第三條　休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

第四條　休職員ハ常ニ其職ニ從事セスシテ在職吏員ニ異ナルコトナシ

第五條　休職員ハ當廳事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第六條　休職ノ期間第一條休職員ハ六ケ月トス期滿レハ當然退職者トス

第七條　削　除

第八條　休職ヲ命シタルトキハ其月分俸給ノ全額ヲ支給スルモ其翌月ヨリ給與セス

第九條　休職員ハ官公署其他會社等ノ事務ニ從事スルコトヲ得

行政區及區長設置規程

（明治三十五年五月十五日告示第二十一號）

（改正）大正二年七月二十六日告示第三十五號　大正六年八月十五日告示第五十一號
（改正）大正八年十二月十八日告示第八十號
（改正）大正十五年四月一日告示第二十九號

第一條　本市行政區ヲ二十九區ニ分チ其區域左ノ如シ

一區　土居（渡場筋兩側ヲ除ク南全部）
二區　土居（渡場筋兩側及北全部）
三區　御供所町
四區　北平山町
五區　瓦町
六區　風袋町
七區　茂町
八區　米屋町　松屋町
九區　魚屋町　宗古町
十區　西平山町（本通兩側及南全部）
十一區　西平山町（学十三軒家及北全部）
十二區　福島町　新町
十三區　濱町
十四區　本町
十五區　通町
十六區　富屋町
十七區　塘飽町
十八區　南條町

十九區　地　方（横堀北全部）　二十區　地　方（横堀南全部）
二十一區　中　府（書中府門跡北全部）　二十二區　中府（書中府門跡南全部）　津　森（三軒家筋）
二十三區　番　丁　二十四區　津　森（三軒家筋ヲ除ク）
二十五區　今　津　二十六區　鹽　屋
二十七區　新　田　二十八區　上金倉
二十九區　下金倉

第二條　每區ニ區長及區長代理者一名ヲ置ク

第三條　區長及代理者ノ任期ハ二ケ年トス

第四條　區長及代理者中闕員ヲ生シタルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行フ
補闕區長及代理者ハ其前任者ノ殘任期間在任ス

第五條　每區ニ左表ノ筆墨料使丁料ヲ給ス

筆墨料	使丁料
一ケ年金五圓	受持區內戶數一戶ニ付拾錢

附　則

第六條　本規程ハ大正九年一月十五日ヨリ施行ス

第七條　本規程施行ノ際在任者ハ舊規程ニ依リ任期間在任スルモノトス
前項ノ場合ニ於ケル補闕區長及代理者ノ任期ハ大正九年一月十五日ヨリ起算シ二ケ年ノ殘任期間トス

第四類　委員

學務委員條例

（明治三十五年三月條例第八號）

（改正）大正七年五月十日告示第三十四號

第一條　本市ニ置ク學務委員ノ組織左ノ如シ

一　市會議員ヨリ　一名

一　市公民中選舉權ヲ有スルモノヨリ　三名

一　市立小學校男敎員ヨリ　四名

第二條　市會議員及市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ出ツル委員中缺員アリタルトキハ補缺選舉ヲ行フモノトス

第三條　委員ハ實費辨償ノ外一名ニ付一ケ年報酬金拾圓ヲ給ス

但敎員ヨリ出ツル委員ハ此限リニアラス

市區計畫調查委員規程

（大正十二年九月二十五日 丸龜市告示第六十二號）

第一條　市制第八十三條ニ依リ市區計畫調查委員ヲ置ク

第二條　委員ノ定數ヲ九名トシ市會議員名譽職參事會員ヨリ六名市公民中選擧權ヲ有スルモノヨリ三名ヲ選擧ス

第三條　委員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ從フ

但委員ノ資格ニ異動アリタルトキ又ハ其他ニ依リ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フ其補缺員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第四條　委員ハ左ノ事件ヲ調查審議スルモノトス

都市改良ニ關スル計畫及施設ノ件

第五條　委員會ハ委員定數ノ半數以上出席スルニアラザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ス

但招集再會ニ及ブトキハ此限ニアラズ

第六條　委員會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル處ニ依ル

第七條　學理又ハ技術設計其他ニ關シ調査ノ必要アリト認ムルトキハ委員會ノ議決ニ依リ顧問ヲ推薦シ又ハ囑託員ヲ置クコトヲ得

第八條　顧問囑託員ニ對シ委員會ノ議決ニ依リ報酬又ハ手當ヲ支給スルコトヲ得

臨時港灣調査委員規程

（大正十二年七月二十二日告示第四十八號）

（改正）大正十五年五月二十九日告示第五十二號

第一條　市制第八十三條ニヨリ港灣調査ノ爲メ臨時調査委員ヲ置ク

第二條　委員ノ組織左ノ如シ

一　市會議員ヨリ　五名

一　市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ　四名

第三條　委員ノ任期ハ調査完了迄トス

但缺員ヲ生シタル時ハ補缺ヲナス

第四條　必要アリト認ムル時ハ顧問ヲ囑託シ又ハ技術員ヲ置クコトヲ得

市營住宅建築委員規程

（大正十一年一月十五日告示號外）

（改正）大正十五年五月二十九日告示第五十一號

第一條　市營住宅建築事務處辦ノ爲メ臨時委員ヲ置ク

第二條　委員ノ組織左ノ如シ

一　市會議員ヨリ　三名

一　市公民中選擧權ヲ有スルモノヨリ　二名

第三條　委員ノ任期ハ建築工事完了迄トス

但シ缺員ヲ生シタル時ハ補缺ヲナス

丸龜市職業紹介所委員規程

（大正十五年四月一日告示第二十七號）

（改正）大正十五年九月十四日告示第七十一號

第一條　本市ニ職業紹介法ニ基キ命令ノ規程ニ依リ職業紹介委員ヲ置ク

第二條　委員ノ定數ハ之ヲ十人トシ左ニ掲クルモノヲ以テ之ヲ組織ス

一　使用者ノ利益ヲ代表シ得ル者　三人

一　勞働者ノ利益ヲ代表シ得ル者　三人

一　其他　四人

第三條　委員ハ職業紹介所ノ事業ノ經營ニ關シ市長ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申シ尚ホ委員ハ隨時勞務需給ニ關スル情況ヲ職業紹介所ニ通報スルモノトス

第四條　市長ハ委員ヲ招集シ又ハ招集セズシテ委員各自ニ就キ諮問ヲ爲スコトヲ得

第五條　市長ハ必要ト認メタル時ハ委員ニ職業紹介事業ニ關スル調査ヲ依囑スルコトヲ得

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四類　委　員

欠

MISSING

丸龜市水道委員規程

（大正十二年一月八日告示第三號）

（改正）大正十二年九月二十三日告示號外

第一條　市制第八十三條ニ依リ水道委員ヲ設ク

第二條　委員ノ定數ハ九名トシ市會議員ヨリ六名市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ三名ヲ選擧ス

第三條　委員ノ任期ハ水道布設事業ノ完了スル迄トス

但シ委員ノ資格ニ異動アリタルトキ又ハ其他ニ依リ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フ其補缺員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第四條　委員ハ市長ノ諮問ニ應シ左ニ掲クル事件ヲ調査審議スルモノトス

一　公債募集ニ關スル件

二　工事施行ニ關スル件

三　水利補償ニ關スル件

四　土地買收並地上物件補償ニ關スル件
五　工事設計ノ變更ニ關スル件
六　其他重要ト認ムル件

第五條　委員會ハ委員定數ノ半數以上出席スルニアラザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
但招集再同ニ及フトキハ此ノ限リニアラズ

第六條　委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル
附則

第七條　名譽職參事會員ニシテ現ニ委員ノ職ニ在ルモノハ任期間在職スルモノトス

第五類　廳規

丸龜市役所處務規程

（明治三十二年九月決定）

（改正）明治三十七年四月一日縣達第一號
（改正）明治三十八年二月一日縣達第六號
（改正）大正十三年六月十四日縣達第一一號
（改正）大正十五年十月十四日縣達第一一號

第一章　總則

第一條　文書ハ市長名市役所名ヲ用ウルノ外係名若クハ係員名ヲ用ユルコトヲ得ス

第二條　各係ニ主任一名係員若干名ヲ置ク

但シ主任事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スル場合ノ外其ノ係中上席者其ノ事務ヲ代理ス

第三條　主任ハ市長ノ命ヲ承ケ係員ノ事務分擔ヲ定メ（市制第九十七條該當ノシ事務收入役）係中ノ事務ヲ處理スルノ責ニ任ス

第四條　主任ハ常ニ係員ノ勤惰能否ヲ監査シ意見ヲ市長ニ具申スルコトヲ得

第五條　主任ハ每曆年ノ初ニ於テ前年事務ノ實蹟ヲ市長ニ申告スヘシ

第六條　係員ハ上司ノ指揮ヲ受ケ主務ニ從事ス

第七條　係員ハ係員中相互ニ補助スルハ勿論時宜ニ依リ他係ニ關スル事項ト雖モ相幫助スル

等上司ノ指揮スル處ニ從フヘシ

第八條　臨時又ハ特殊ノ事務ヲ處辨スル爲メ課又ハ部局ヲ設ケ委員ヲ置クコトアルヘシ

第九條　他係ニ關渉スル事務ハ其ノ關係多キ係ニ於テ處理スヘシ

第二章　事務分擔

第十條　廳中ヲ係ニ分チ各其ノ事務ヲ分擔セシム

庶務係　戸籍係　勤業係
學務係　土木係　兵事係
稅務係　會計係　衛生係
出納係　掃除監視係
水道係

第十一條　各係ノ分擔事務左ノ如シ

庶務係

一　御眞影並ニ儀式ニ關スル事項
二　條例規則ニ關スル事項
三　秘密文書ニ關スル事項

四　市會市參事會其他議事ニ關スル事項
五　議員其他選擧ニ關スル事項
六　歲入出豫算ニ關スル事項
七　事務報告書調製ニ關スル事項
八　所印職印ノ保管ニ關スル事項
九　吏員以下進退賞罰ニ關スル事項
十　訴願及訴訟ニ關スル事項
十一　褒賞ニ關スル事項
十二　恤救並ニ棄兒養育ニ關スル事項
十三　天變地異災害ノ報告ニ關スル事項
十四　社寺及宗教ニ關スル事項
十五　神職僧侶ニ關スル事項
十六　精神病者及行旅病人ニ關スル事項

十七　廳中取締並ニ書記ニ關スル事項
十八　警備ニ關スル事項
十九　公文書接受發遣及公告ニ關スル事項
二十　文書恩給並ニ遺族扶助料ニ關スル事項
二十一　報告統計ニ關スル事項
二十二　地方改良及民力涵養ニ關スル事項
二十三　感化並ニ救濟事業等ニ關スル事項
二十四　其他他係ニ屬セザル事項

戸籍係

一　戸籍ニ關スル事項
二　印鑑及雇人證明ニ關スル事項
三　寄留ニ關スル事項
四　家資分散破産及處刑人ニ關スル事項

五　原籍身分證明及人事ニ關スル事項
六　市民遺留財產及資力調ニ關スル事項
七　狩獵規則ニ關スル事項
八　海外渡航及移民ニ關スル事項
九　有位有勳者ニ關スル事項
十　火葬埋葬認可證下付ニ關スル事項
十一　改氏名ニ關スル事項
十二　其他戸籍ニ關スル事項

兵事係

一　徵兵及兵籍ニ關スル事項
二　陸海軍召集ニ關スル事項
三　徵發及戒嚴ニ關スル事項
四　行軍演習ニ關スル事項

五　賞勲年金及軍人軍属ニ關スル事項
六　志願兵ニ關スル事項
七　在郷軍人會ニ關スル事項
八　其他兵事ニ關スル事項

勧業係

一　農商工業ニ關スル事項
二　銀行會社組合市場ニ關スル事項
三　博覧會共進會品評會ニ關スル事項
四　度量衡ニ關スル事項
五　勧勉貯蓄ニ關スル事項
六　地震豫防ニ關スル事項
七　傳染病豫防ニ關スル事項
八　職業紹介所公設市場市營住宅等ニ關スル事項

九　其他勧業ニ關スル事項

學務係

一　學校幼稚園ニ關スル事項
二　學校幼稚園職員身上ニ關スル事項
三　學校醫及學校衛生ニ關スル事項
四　學務委員ニ關スル事項
五　學校職員退隠料及遺族扶助料ニ關スル事項
六　就學兒童ニ關スル事項
七　社會教育ニ關スル事項
八　其他學務ニ關スル事項

土木係

一　河川海岸道路橋梁用悪水路堤塘港灣公園等ニ關スル事項
二　廳舎其他市有建造物等ノ新築修繕ニ關スル事項

三　地理ニ關スル事項
四　市區計畫ニ關スル事項
五　水防ニ關スル事項
六　氣象觀測ニ關スル事項
七　其他土木修繕ニ關スル事項

衛生係

一　公衆衛生ニ關スル事項
二　醫師藥劑師藥種商製藥者產婆等ニ關スル事項
三　鍼治灸治口中療治接骨營業ニ關スル事項
四　傳染病院ニ關スル事項
五　墓地火葬場及屠場ニ關スル事項
六　種痘ニ關スル事項
七　市醫ニ關スル事項

八　傳染病豫防委員ニ關スル事項
九　其他衛生ニ關スル事項

掃除監視係

一　汚物掃除ニ關スル事項

稅務係

一　國稅縣稅賦課徵收ニ關スル事項
二　市稅賦課徵收ニ關スル事項
三　鑑札下付及船車檢印ニ關スル事項
四　家屋檢查ニ關スル事項
五　市稅其他滯納處分ニ關スル事項
六　其他稅務ニ關スル事項

會計係

一　金錢ノ收支ニ關スル事項

二　歳入出決算ニ關スル事項
三　塵芥屎尿其他不用品賣却ニ關スル事項
四　其他會計ニ關スル事項

出納係

一　需用品調度其他物品出納ニ關スル事項
二　水道及附屬土地建物水管其他給水用具管理ニ關スル事項

水道係

一　給水及其取締ニ關スル事項
二　水道ノ設計及工事ニ關スル事項
三　給水料使用料及工事費徴收ニ關スル事項
四　其他水道ニ關スル事項

第三章　處務順序

第十二條　書類ニ到着シタル文書ハ庶務係之ヲ受ケ開緘ノ上附錄第一號樣式ノ受付件名簿ニ記載シ本書ニ受付ノ月日番號ヲ記入シ市長ノ檢閲ヲ受ケ主任ニ配付シ受領印ヲ徴スヘシ但シ現金又ハ金券アルトキハ受付簿ニ其旨記載シ之ヲ收入役ニ回付シ領置ノ認印ヲ受クヘシ

第十三條　親展ノ標記アル文書ハ之ヲ封書配付簿ニ登記シ宛名ノ向ヘ配付認印ヲ受クヘシ

第十四條　電信ヲ收受シタルトキ市役所宛ノモノハ直ニ開封シ受付件名簿ニ登記シ市長ノ閲覽ヲ得通常文書配付ノ順序ニ依リ急速配付スヘシ但シ市役所宛ノ外ハ前條ニ依ルヘシ

第十五條　休暇又ハ退廳後到着ノ文書ハ當直者ニ於テ之ヲ受至急ヲ要スルモノト認ムルモノハ直ニ其ノ主任ヘ回付シ其他ハ翌朝庶務係ニ引繼クヘシ但シ休暇ノ場合ハ次直者ニ引繼ヘシ

第十六條　庶務係ニ於テ前日ノ宿直員ヨリ收受シタル文書ハ直ニ配付スヘシ

第十七條　各主務係ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケルトキハ附錄第三號樣式ニ依リ即日其處分案ヲ起草シ回議ニ付スヘシ若シ即日處分シ得サルモノアルトキハ其ノ時日ヲ定メ事由ヲ記載シタル第四號樣式ノ附箋ヲ貼付シ主任ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ但シ期日ノ指定シアルモノハ此限リニアラス

第十八條　受理シタル又書ニシテ違式誤脫又ハ文意不明ノモノハ其ノ旨ヲ示シ訂正セシムヘシ若シ其文書當廳ノ所管ニアラサルカ又ハ受理スヘカラサルモノト認ムルトキハ其ノ理由ヲ記載シ主任ハ市長ノ決裁ヲ得テ却下スヘシ

第十九條　經由スヘキ文書ニシテ副申ヲ要セサルモノハ附錄第五號樣式ノ文書經由伺簿ニ記載シ回議ニ付スヘシ

第二十條　處分案ハ意義平易簡明ナルヲ要ス若シ字句ヲ添削シタルトキハ必ス認印スヘシ

第二十一條　合議ヲ受ケタル回議ニ對シ裁後再回ヲ要スルモノハ回議書ヘ（要再回）ノ印ヲ押捺シ主任者之ニ認印スヘシ

第二十二條　緊急ノ回議ニハ必ス其ノ上端ニ赤色ノ紙片ヲ貼付スヘシ

第二十三條　主任ニ於テ決裁濟發送ヲ要スル文書ハ淨寫校合ノ上押印シ原書ト共ニ之ヲ庶務係ヘ交付スヘシ但シ秘密文書又ハ急ヲ要スルモノハ其ノ主任ニ於テ取扱フヘシ

第二十四條　書面ヲ要セス口頭ノ通屆ハ各主務係ニ於テ特ニ定ムル簿冊ニ其ノ要領ヲ登記シ速ニ處理スヘシ

第二十五條　官衙ヨリ電話ニテ照會アル時ハ其ノ通信ヲ書取リ至急回議ノ上處理スヘシ

第二十六條　庶務係ニ於テ發送文書ノ交付ヲ受ケタル時ハ左ノ順序ニ依リ處理スヘシ

一　退廳三十分前迄ニ交付ヲ受ケタルモノハ即日發送シ其以後ニ係ルモノニシテ至急ヲ要セサルモノハ翌日發送シ事件結了ノ上ハ其旨發送簿ニ記入スヘシ

二　文書ヲ發送スル時ハ附錄第二號樣式發送件名簿ニ登記シ本書ニ其ノ番號ヲ朱記ノ上發送シ原書ニハ發送月日番號ヲ記入取扱者認印シ且ツ同發送簿ヲ以テ主任ニ還付スヘシ

三　發送文書ノ郵送ニ係ルモノハ郵便發送簿ニ記載シテ收入役ニ送付スヘシ

第二十七條　庶務係ヨリ文書發送濟原書ノ還付ヲ受ケタルトキハ添付シタル發送件名簿ニ主任ニ於テ受領認印ヲ爲シ同發送簿ハ庶務係ヘ還付スヘシ

第二十八條　處分完結シタル總テノ文書ハ各係ニ於テ一件書類ヲ一纏トシ索引ヲ附シ編纂保管スヘシ

第二十九條　市民ヲ召喚セントスルトキハ各係ノ召喚簿ニ發送月日出頭ノ月日時間並ニ事件ノ大要召喚人ノ住所氏名ヲ記シ主任ノ承認ヲ得テ之ヲ召喚紙ニ移シ發送スヘシ但シ事件ノ

爲メ再度以上ノ召喚ヲ要スル時ハ特ニ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第四章　文書編纂及保存

第三十條　文書ハ法律命令ニ規定アルモノヽ外保存期限ニ依リ之ヲ區別シ附錄第六號ノ如ク類別編纂スヘシ

第三十一條　文書ハ法律命令ニ規定アルモノ、外徵考例證ニ備フヘキモノヲ永久保存トシ餘ハ五ケ年保存トス其區別附錄第七號ノ如シ

第三十二條　保存期限ヲ終リ廢棄スヘキ文書中印章等他ヘ移用スルノ虞アルモノハ塗抹或ハ截斷シテ後廢棄ヲ爲スヘシ

第三十三條　完結文書ニシテ五ケ年保存ノ分ハ假綴ニシテ永久保存ノ分ハ本綴ニシテ目次ヲ付スヘシ

第三十四條　法律命令ノ改廢ハ庶務係ニ於テ其都度加除訂正シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第五章　文例

第三十五條　收受發送文書ノ記番號ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

受發（主務係ノ頭字）第　何　號

第三十六條　市令達ノ記番號ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

九龍市告示第何號　市內一般又ハ二部ニ公示スルモノ

丸龍市告諭第何號　市內一般又ハ一部ニ注意ヲ與フルモノ

廳達第何號　廳中一般又ハ一部ニ指示命令スルモノ

第三十七條　官公署其他ニ對スル往復文書ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ文例ノ規定アルモノハ此限リニアラス

記號

上申（通牒、照會、報告）

宛名

何々ノ件

何、、、

九龍市告示第何號

本市々會ノ議決ヲ經其筋ノ許可ヲ得テ何々ノ件左ノ通（相定メ）（改正シ）何年何月何日ヨリ施行ス

年　月　日

九龍市長　氏　名

何、、、、、、、、

何々ノ件

指令文例

住所
氏名

受（主務係頭字）第何號（受付番號）

何年何月何日付願（上申）何々ノ件（許可）（認可）ス

九龍市長　氏　名

年　月　日

第六章　服務心得

第三十九條　市吏員參廳シタル時ハ直ニ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第四十條　公用ノ爲メ參廳時間ヲ過クルトキハ係主任ノ證明書ヲ請ケ庶務係ノ承認ヲ得テ出勤者ニ捺印スヘシ

第四十一條　出勤簿ハ毎日退廳ノ節庶務係ヨリ宿直ニ引繼キ宿直ハ翌日參廳時限前之ヲ定メノ場所ニ差出スヘシ庶務係ハ參廳後三十分以内ニ遲參早引等ノ整理ヲ爲スヘシ

第四十二條　市長在廳中ハ退廳時限後ト雖モ退廳スルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限リニアラス

第四十三條　事務繁劇ノ節時限外ハ勿論休暇タリトモ參廳シテ事務ニ服スヘシ但シ夜業又ハ休暇ニ出勤ヲ要スル場合ハ豫メ其旨市長ニ申告スヘシ

第四十四條　退廳後居殘又ハ休暇ニ參廳スルモノハ必ス其ノ由ヲ當　ニ通告スヘシ

第四十五條　病氣ニ依リ缺勤スルトキハ屈書ヲ差出ツヘシ缺勤一週日ヲ超ユル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ在廳中發病其他不得止事故ニ因リ退廳セントスルモノハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第四十六條　父母病氣看護其他不得止事故ノ爲メ缺勤セントスル者ハ出願許可ヲ受クヘシ但シ病氣看護ノ爲メ缺勤スル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第四十七條　忌服ヲ受ケタル時ハ其ノ續柄及死亡ノ日時ヲ記シ其ノ旨届出ッヘシ

父母ノ祭日ニ當リ賜暇ヲ受クル者ハ其前日ニ届出スヘシ

第四十八條　文書ハ市長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ他人ニ示シ又ハ謄本ヲ與フルコトヲ得ス

第四十九條　退廳ノ節ハ各自擔當ノ文書等散失セサル樣注意ヲ加ヘ印箱鍵箱ノ類ハ當直ニ付託シ又疾病其他ノ事故ニ因リ缺勤スル者ハ擔當ノ事件ニシテ至急ヲ要スルモノハ主任ハ係中上席者ニ係員ハ同係員ニ引繼クヘシ

第五十條　新任ノモノハ拜命三日以內ニ履歷書及住所届ヲ差出スヘシ但シ改氏名轉居ハ其ノ都度届出スヘシ

第五十一條　退職或ハ係替ヲ命セラレタルトキハ其擔任ノ事務ハ目錄及演說書ヲ作リ三日以內ニ市長ノ指命者ニ引繼ヲ了シ其旨連署ヲ以テ届出スヘシ但シ貸與物品退職者ハ出納係ヘ返納スヘシ

第五十二條　出張ヲ命セラレタル時ハ歸廳後三日以內ニ事務ノ要領ヲ記述シ復命スヘシ但シ輕易ナルモノハ口頭ヲ以テスルコトヲ得尙ホ擔當ノ事件ニシテ急施ヲ要シ若クハ期限アルモノハ處分ノ見込ヲ付シ係員ヘ申繼クヘシ

第五十三條　病氣ノ爲メ轉地療養若クハ父母忌中祭日墓參又ハ賜暇中旅行セントスルトキハ其ノ期日ト行先トヲ明記シ出願許可ヲ受クヘシ若シ期限內歸廳スルコト能ハサル事由生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ追願許可ヲ請フヘシ但シ發着トモ届出ッヘシ

第五十四條　市內ニ出火アル時又ハ風水震災等非常ノ事變アル時ハ速ニ參廳スヘシ

第七章　當直心得

第五十五條　當直ハ書記技手掃除巡視雇ヲ通シテ一名輪番ヲ以テ之ニ充ッ

第五十六條　當直ハ退廳時限ヨリ翌日參廳時限迄休暇日當直ハ平常出務時限トシ其ノ間ニ生スル一切ノ事務ヲ處理シ廳中ノ取締ヲ爲スモノトス

第五十七條　當直ハ庶務係ヨリ當直通知簿ヲ以テ前日迄ニ本人ニ通知シ其承印ヲ徵スヘシ

但シ臨時繰上等ヲ要スル場合ハ當日通知スルコトアルヘシ

第五十八條　左ノ各項ノ期間當直ニ該當スルモノハ免除ス

一　市外一週間以上出張中及其ノ出張ノ前日但シ出張ノ命ヲ受ケタルモ出發未定ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

一　新任者ハ拜命ノ日ヨリ七日間

一　忌引中

第五十九條　賜暇又ハ病氣引籠中ノ者ハ一時除直シ出勤ノ翌日償直セシムヘシ

第六十條　日直宿直相聯續スルトキハ後ノ當直ハ日直次ノ休暇日宿直ハ翌日迄猶豫スヘシ

第六十一條　當直ノ當日疾病其ノ他ノ事故ニ由リ服務スルコト能ハサル者ハ自ラ代直者ヲ定メ連署ノ上主任ヲ經テ庶務係ヘ通知スヘシ

第六十二條　惡病アル者其他必要ニ依リ當直ヲ免除スルコトアルヘシ

第六十三條　當直中到着ノ文書ハ左ノ各項ニ依リ取扱ヒ其ノ送付シタルモノハ受領印ヲ受クヘシ

一　市長名市役所宛ノ文書並ニ市役所宛ノ電報ハ開緘ノ上至急ト認ムルモノハ主管ノ主任ヘ送付スヘシ

一　市長宛ノ親展文書並ニ電報ハ封ノ儘市長ニ送付スヘシ

一　助役以下吏員宛ノ電報及親展ノ表記アル文書ハ封ノ儘宛名ノ者ヘ送付スヘシ

一　通常ノ文書ハ日誌ニ登記シ翌朝庶務係ニ交付シ又ハ之ヲ次直者ニ引繼クヘシ

第六十四條　當直者ハ各係退廳ノ後廳內ヲ巡視シ火器アル所ハ特ニ注意ヲ加ヘ警戒スヘシ

第六十五條　火災其他非常ノ場合ハ臨機適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六十六條　當直者ハ住所ノ近火ナルトキハ參廳シタル吏員ト申合交番ノ上退廳スルコトヲ得

第六十七條　當直中處理シタル事項ハ其ノ顚末ヲ日誌ニ記載シテ後日ノ參看ニ便シ且ツ口授スヘキ事項ハ遺漏ナク申繼クヘシ

第六十八條　當直者ハ其ノ翌日事務ノ都合ニ依リ市長ノ許可ヲ受ケテ退廳スル事ヲ得

附錄第一號乙 受付件名簿

月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號
件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名	
差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先	

受附件名簿

月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號
件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名	
差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先	

附錄第一號甲 受付件名簿

月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號
件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名	
差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先	

受附件名簿

月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號	月日	受第號
件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名		件名	
差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先		差出先	

附錄第一號甲

發送件名簿

受第號	月日						
名件							
先出差							

附錄第二號

昭和年月日受付	昭和年月日起案	昭和年月日發送
市長	助役	收入役	主任
			係員

附錄第四號

堅四寸五分

市長	助役	主任
○	○	○

横三寸

即日處分シ得サル理由	處分期間

附錄第五號

文書經由伺簿

市長認印	助役認印	收入役認印	主任認印	月日	差出人	件名	結果	取扱者認印

附錄第六號　文書編纂

一類　官報及公報綴

二類　縣令達綴

三類　請訓綴

四類　上級廳通牒書綴（例規タルヘキ者ト一時限リノ者トヲ區別ス）

五類　市條例及市規則綴

六類　市會及市參事會ニ關スル書類綴

七類　衆議院議員縣會議員及選擧ニ關スル書類綴

八類　往復綴（上級廳ノ往復ト其他ノ者トヲ區別ス）

九類　諸願屆綴

十類　雜件綴

右ノ外各係ニ於テ分類ノ必要アルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

但シ永久保存ヲ要スルモノト其他ノモノトヲ區別シ編纂スルヲ要ス

附錄第七號　保存區別

永久保存ノ部

一　公報

二　本縣公布式ニ依ル文書

三　請令及例規タルヘキ通牒書

四　例上申及請議ノ本書

五　諸臺帳

六　部內令達告示認議原書

七　例規タルヘキ同議原書

八　參考書類

九　市會議事錄

十　市吏員市參事會員及議員就職退職書類

十一　右ノ外永久保存ノ必要ト認ムヘキ書類

五ヶ年保存ノ部

一　臺帳登錄ヲ了シタル請申牒

二　縣廳其他ヘ差出セシ屆書及上申書（指令ヲ付セサル分）

三　衆議院議員縣會議員市會議員選擧人調書類

四　工事目論見書類ニシテ決算ヲ了シ不用ニ屬セシモノ

五　決算ノ認定ヲ經タル書類

六　一時往復ノ書類

七　市吏員ノ一身上ニ係ル願書及受書

八　右ノ外永久保存ノ必要ナキ書類

執務時間

（大正五年十二月十八日廳達第七號）

（改正）大正十一年七月十日九龍市告示第五一號

（改正）大正十三年六月二十七日廳達第八號

當市役所ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通リ改正シ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　四月一日ヨリ七月二十日迄

午前八時ヨリ午後四時迄　但シ土曜日ハ午十二時迄トス

一　七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

午前八時ヨリ午十二時迄

一　九月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後四時迄　但シ土曜日ハ午十二時迄トス

一　十一月一日ヨリ三月三十一日迄

午前九時ヨリ午後四時迄　但シ土曜日ハ午十二時迄トス

休暇日

（大正十三年六月二十七日庁達第九號）

本市吏員ノ休暇日ハ左ノ通リ改正シ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一　七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ニ支障ナキ限リ係員繰合セノ上二十日以内ノ休暇ヲナスコトヲ得

但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲナスコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲナスコトヲ得其ノ休暇ヲ受ケントスルモノハ庶務係ニ備付ノ休暇簿ニ登記シ前日迄ニ届出ツヘシ

暑中執務ニ關スル件

（大正十四年七月二十日屆港第八號）

本月二十一日ヨリ八月三十一日至ル暑中執務ニ關シ左記事項心得ラルヘシ

記

一　暑中執務時間午前八時乃至正午ノ規程ナルモ臨時雇使用ノ係ニ於テハ其主任者ハ必ス臨時雇執務時間内ハ必ス居殘勤務スヘキコト

其他ノ係ニ於テモ暑中早退時間ヲ利用シ事務ノ整理ヲナスコト

二　暑中洋服着用者ハ上着ヲ脫シ執務差支ナシ

市長室ニ至ル場合ニ於テモ上着ヲ脫シタル儘ニテモ差支ナシ

市内出張ノ場合申告方ノ件

（大正十五年二月二十四日農通第三號）

自今各係ニ於テ公務ノ爲メ市内ヘ出張ノ場合主任者ハ助役ヘ係員ハ主任ヘ其行先ヲ必ス申告セラルヘシ

助役代理決裁事項

（大正十二年九月十七日訓達第二號）

當分ノ內市長在廳中ト雖モ左ノ事項ハ助役ヲシテ代理決裁セシム

但シ重要事項ト認ムルモノハ後閱スルモノトス

一　制規定例ニヨル照會、回答、報告

二　既決事件ノ處理必要ナル照會、回答、催告、召喚

三　事務取扱上ノ參考ニ資スル爲メニ發スル照會、回答

四　制規定例ニヨリ或ハ既決事件ノ執行トシテ爲ス公示、告達、通知、傳達、交付

五　市書記（係主任者ヲ省ク）以下ニ關スル諸屆類ノ處理、規程ニヨル認許又ハ命令

六　學校職員ニ關スル諸屆類ノ處理

七　雇傭人ノ使役

八　俸給、旅費、日當、手當、賄費、實費辨償ノ支出命令

九　役所消耗品及雜品受拂ニ關スル會計帳簿並ニ日計表ノ檢閱

一〇　既決工事ノ實施ニ關スル諸屆ノ受理及命令

一一　學齢兒童ノ就學不就學ニ關スル通知、報告ノ受理檢閲
一二　諸臺帳ノ加除訂正
一三　告知書ノ發行判決及國縣稅納付手續
一四　過誤納金ノ整理徵收囑託及引繼ノ處理
一五　口頭申告處理ヲ許サレタルモノ
一六　猶豫ヲ以テ處理スルヲ許サレタルモノ

使丁監督規程

（大大正元年十一月三日決定）

第一條　當廳ニ使丁監督二人ヲ置キ收入役庶務係書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　使丁監督ハ使丁取締以下ノ職務一切ヲ指揮監督シ若シ事務敏捷ヲ缺キ又ハ怠慢ノモノアルカ或ハ他ニ意見アルトキハ之ヲ市長ニ具狀シテ其差圖ヲ受クヘシ

第三條　使丁監督ノ取扱フ事務左ノ如シ

一　市內人民ニ送達スヘキ徵稅令書又ハ人民召喚狀其他ノ文書ニシテ主務係ヨリ送付アリタルトキハ使丁ヲシテ配付セシムル事

二　使丁順番ヲ以テ內外勤務ノ受持ヲ定ムル事

三　使丁ノ職務上不審ノ廉アルトキハ實地ニ出張其實否ヲ取糺ス事

四　使丁勤務ノ方法ヲ設ケ市長ノ承認ヲ經テ實行スル事

給仕使丁服務心得

（大正十三年六月十四日庶達第七號）

第一條　給仕使丁ハ職務ニ對シ忠實ヲ主トシ左ノ各項嚴守スヘシ

一　人ニ接スルニ懇切ナルコト

二　廳內ノ事ヲ他ニ漏洩スヘカラサルコト

三　服務中揔ニ職務ヲ離レ又ハ他ノ業務ニ關係セサルコト

第二條　給仕使丁ハ出廳シタル時ハ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ

第三條　給仕使丁ハ執務時間三十分前出勤シ同三十分後退出スヘシ

但シ主任以上在廳中ハ許可ナク退出スル事ヲ得ズ

第四條　勤務其他身上ニ關シテハ庶務係ノ指揮ニ從フヘシ

給仕心得

第五條　給仕ハ各職員ノ指命ニ從ヒ用務ヲ辨スヘシ

第六條　給仕ハ猥リニ離席スヘカラス

第七條　給仕ハ來廳者ヘ茶煙草盆等ヲ出ス事ニ注意スヘシ

使丁心得

第八條　使丁ニ使丁取締員一名ヲ置ク其ノ任命ハ市長ノ承認ヲ經テ庶務係之ヲ命ス

但シ使丁取締事故差支ノトキハ使丁中上席者之ヲ代理ス

第九條　使丁取締ハ使丁監督ノ指揮ヲ受ケ職務ニ從事スヘシ

第十條　使丁ハ總テ使丁監督又ハ使丁取締ノ指揮ヲ受ケ職務ニ從事スヘシ

第十一條　使丁ハ順番ニ依リ廳中及ビ外部ノ用務ニ從事スヘシ

第十二條　使丁ノ當直者ハ二名宛トシ輪番ヲ以テ其勤務ニ從事シ當宿直職員ノ指揮命令ニ從フヘシ

第十三條　使丁ハ擊折ヲ以テ昇降廳ノ時刻ヲ報ズヘシ

第十四條　宿直使丁ハ毎日昇降廳時間前後廳ノ内外掃除ヲ爲シ常ニ湯茶ヲ用意シ冬季ニハ火ヲ絶ヤサル樣注意スヘシ且職員昇廳前火鉢煙草盆ヲ配置スヘク日曜當直者ハ必ズ總テノ硝子ヲ拭淨スヘシ

第十五條　宿直使丁ハ職員退廳後ハ火鉢煙草盆取片付若シ散亂スル文書又ハ物件アルトキハ相當保存ノ手續ヲナシ翌朝主務係ヘ引渡ヲ爲ス等特ニ火ノ元嚴重取締ヲナスヘシ

第十六條　使丁ハ正午十分前各職員ノ辨當及茶瓶ヲ指定ノ場所ニ配付シ喫飲ノ後ハ常置ノ箇所ヘ持退クベシ

第十七條　使丁監督ヨリ受ケタル總テノ文書及物品ハ之ヲ大切ニ取扱フハ勿論其緩急ヲ見計ヒ不都合ナキ樣速ニ送達スヘシ

給仕使丁休暇ニ關スル件

（大正十五年七月十六日廳達第七號）

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ勤務ニ支障ナキ限リ繰合ノ上七日以內ノ休暇ヲ
ナスコトヲ得其休暇ヲ受ケントスル者ハ庶務係備付ノ休暇簿ニ記入シ前日迄ニ届出スヘシ
但シ勤務ノ都合ニ依リ當該期間內ニ於テ休暇ヲナスコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間
ニ於テ之ヲナスコトヲ得

收入役身元保證規程

（三十二年十月告示第十二號）

（改正）大正元年九月告示第十一號

（改正）大正九年八月六日告示第五十六號

第一條　本市收入役ニ就職シタル時ハ二週間以内ニ身元保證金トシテ金四百圓ヲ納付スヘシ

前項身元保證金ハ確實ト認ムル銀行ニ預ケ入其證書ヲ保管シ之ヨリ生スル利子ハ毎期之ヲ本人ニ交付ス

第二條　前項ノ保證金ハ國債證券又ハ市長ニ於テ適當ト認メ指定スル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得其價格ヲ定ムルコト左ノ如シ

但身元保證金ニ對シ證券ニ過剩アルモ其儘納付スルモノトス

一　四分利付國債證券額面百圓ニ付金八十圓

一　五分利付國債證券額面百圓ニ付金九拾圓

一　其他ノ有價證券額面金高ノ十分ノ八

第三條　市長ニ於テ適當ト認ムル時ハ保證人二名ヲ以テ前各條ノ保證金ニ代用スル事ヲ得

身元保證人ハ本市公民ニシテ五年以上間斷ナク直接國稅拾圓以上ヲ納メ市長ニ於テ適當ト認ムルモノニ限ル

第四條　第三條ノ保證人損害賠償ノ責ニ任シ且ツ市長ノ指示スル身元保証書ヲ提供スヘシ

第五條　收入役代理ニシテ其ノ代理執務繼續一ケ月以上ニ渉ルトキハ身元保證人一名ヲ定メ屆出ツヘシ

前項ノ身元保證人ハ第三條二項及第四條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第六條　本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

丸龜市印鑑ニ關スル條例

（大正十一年三月十四日條例第四十一號）

第一條　本籍者又ハ寄留者ニシテ印鑑屆ヲ爲サントスルモノハ本人自ラ市役所ニ出頭第一號書式ニ據リ屆出ツベシ其改印シタルトキ又同シ

郵便若クハ代理人ニテ屆出ツル場合ハ左ノ各號ノ一ニヨルベシ

一　市役所ニ印鑑屆出ヲナシタル成年者二人以上ノ保證ヲ要ス　但シ他管內ニアルモノ其所在地ノ市區町村長ニ屆出タル印鑑證明書ヲ添付スルモノ又ハ寄留者ニシテ本籍地市區町村長ノ印鑑證明書ヲ添付スルモノハ此限リニアラズ

二　他管內ノモノニシテ保證人タル場合ハ其市區町村長ノ印鑑證明書ヲ添付スルモノトス

第二條　前各條ニ依リ屆出ヲ爲ス印章ハ一人一種ニ限ル

第三條　印鑑ノ屆出ヲ爲シタルモノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ其旨屆出ツベシ

屆出ノ印章ヲ紛失シタル場合ハ本人ヨリ死亡又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人ヨリ其旨直チニ屆出ツベシ

第四條　印鑑ノ證明ヲ受ケントスルトキハ豫メ市役所ニ屆出ヲ爲シタルモノニシテ本人自ラ

出頭シテ申請スベシ

但シ本人自ラ出頭スルコト能ハサルトキハ代人ヲ以テ爲スコトヲ得

第五條　法人ニシテ印鑑ノ届出又ハ印鑑ノ證明ヲ受ケントスルトキハ第一條乃至第四條ニ準據シテ其手續ヲ爲スベシ

附　則

第六條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第七條　本條例施行前印鑑ノ届出ヲ爲シタルモノハ本條例ニ依リ届出ヲ爲シタルモノト見做ス

第一號書式

印鑑（改印）届

印鑑　○

右ハ自今私實印トシテ使用（磨滅等）ノタメ改印致候間此段及御届候也

年　月　日

本籍地
住所
届出人　何　某

年　月　日生

市長宛

第二號書式

印鑑證明申請書

住所
保證人　何　某

年　月　日生

右私實印ニ相違ナキ旨御證明被成度此段申請候也

住所

氏名

生年月日

印鑑　○

年　月　日

市　長　宛

右　何　某

埋火葬割印簿へ認印押捺ノ件

（大正十四年十二月二十六日　廳達第十七號）

休日又ハ退廳後埋火葬ノ認許證ハ其日當直員ニ於テ交付シ來リ候處往々ニシテ取扱者ノ認印ヲ忘ルル者有之右ハ來ル大正十五年一月以降ハ取扱者必ス認印ヲ爲スヘシ

宿直中傳染病發生通知ヲ受理シタルトキ翌日衛生係ニ通知方ノ件

大正十五年十一月二十日廳達第十四號)

宿直中傳染病發生通知ヲ受理シタル際ハ人夫ヲ雇入レ患家ニ立番人ヲ附シ左記要領ヲ具シ翌日衛生係ニ通知スヘシ

記

一　住所
　　戸主トノ續柄及職業
　　患者ノ氏名
　　生年月日
一　病名
一　發病年月日
一　診定年月日
一　屆出醫師氏名

一　誘引系統

備　考

第六類　給與

退隱料條例

（大正三年五月十六日條例第二十三號）

（改正）大正六年五月三十一日條例第二十六號

（改正）大正十三年十月一日條例第四十七號

第一條　本市有給史員ハ此條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クル權利ヲ有ス

第二條　在職滿十二年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ此限ニ在ラス

一、年齡六十歲未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ

二、懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ

三、市長ニ於テ任免スヘキ有給史員ニシテ犯罪アリタルカ爲メ免職セラレタルトキ

四、職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル爲メ失職シタルトキ但シ後ニ免訴若クハ無罪ノ言渡アリタル場合又ハ有罪ノ宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ニ於テハ其裁判確定ノ日ヲ俟テ失職當時ニ遡リテ退隱料ヲ支給ス

第六類　給　與

第三條　在職滿十二年以上十三年未滿ニシテ退職シタル者ノ退隱料ノ年額ハ退職當時ノ給料年額三分ノ一トシ十二年以後滿一年毎ニ給料年額ノ百五十分ノ一ヅツヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム

第四條　在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷疾ヲ受ケ不具癈疾トナリ其職ニ堪ヘスシテ退職シタル者ニハ在職年數ニ拘ラズ終身退職當時ノ給料年額二分ノ一ニ相當スル退隱料ヲ支給ス第二條ノ年限間在職シタル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタル時ハ前項ノ規定ニ照準シタル退隱料年額ニ其三分ノ一ヲ增シタル額ヲ支給ス

第五條　第三條第四條ニ規定セル給料ノ年額ハ月給ノモノハ其十二ケ月分ヲ以テ算出ス退隱料年額錢位未滿ノ端數ハ錢位ニ滿タシム

第六條　有給吏員ノ在職年數ハ裁可認可又ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタルモノニ在リテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第二條第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其以前ノ在職年數ヲ通算セザルモノト

ス

第七條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ヒ就職シ引續キ在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退隱料ヲ給與ス但第二條第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル場合ハ此限ニ在ラス

一、退職現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前職年數ヲ後職ノ年數ニ通算シ後職ニ對スル退隱料ト前退隱料トヲ比較シ其多キ分ヲ給ス

二、退職現時ノ俸給前後相同シキトキハ在職年數ニ依リ退隱料ヲ增加ス

第八條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クル權利ヲ失フモノトス

一、國民ノ分限ヲ失ヒタルトキ

二、六年以上ノ懲役若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、在職中ノ犯罪行爲ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第九條　退隱料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始リ死亡ノ月又ハ權利ノ喪失ノ前月ヲ以テ終ルモノ

トス

第十條　退隱料ノ支給ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間之ヲ停止ス退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ビ就職シタルトキハ其就職間退隱料ノ支給ヲ停止ス

前二項ノ期間ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ其終リタル月迄トス退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者官職又ハ府縣郡市町村其他ノ公共團体ノ職務ニ就キ給料ヲ受クル場合ニ於テハ其給料月額ニ退隱料月額ヲ合シ退職當時ニ於ケル給料月額ニ超過スルトキハ其超過額ニ對スル退隱料ノ支給ヲ停止ス

第十一條　退隱料年額ハ之ヲ四分シ毎年一月四月七月十月ノ四度ニ支給ス但シ退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者死亡シ又ハ權利ヲ喪失シタル場合ハ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第十二條　退隱料ハ賣買讓與質入ヲナスコトヲ得ス

附則

第十三條　本條例中有給史員トハ雇員及日給者ヲ除ク他ノ吏員ヲ云フ

第十四條　本條例ニ依リ退隱料ヲ受クルモノハ退職給與條例ニ依ル一時金ヲ給與セザルモノトス

第十五條　退隱料ヲ受クル者前ニ退職給與金ヲ受ケタルトキハ最初ノ五年間其退職給與金ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ退隱料年額ヨリ控除ス

第十五條ノ二　市町村廢置分合ノ爲メ本市ニ編入シタル市町村ニ在職シタル者ノ權利ニ付テハ本條例ヲ適用ス

但シ該市町村ニシテ退隱料條例ノ制定ナキモノハ此限ニアラス

第十六條　本條例ハ大正四年四月一日コリ之ヲ施行ス

第十七條　本條例施行ノ際現ニ從前ノ規定ニヨリ退隱料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ノ退隱料年額ハ退隱料年額算出ノ基礎トナリタル給料カ大正九年九月三十日以前ノ額ナルトキハ其年額ニ七割ヲ加ヘタル金額ヲ給料年額ト看做シ其ノ他ノ者ニアリテハ在職最終ノ給料年額ヲ基礎トシテ本條例第三條第四條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ退隱料年額トス

第十八條　本改正ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

退隱料受給者心得

（大正十五年十一月十五日決定）

第一條　退隱料條例（以下單ニ條例ト略稱ス）ニヨリ退隱料ヲ受クヘキ者ハ請求書（第一號樣式）ニ左ノ書類ヲ添付シ差出スヘシ

一、在職中ノ履歷書

二、戶籍謄本

條例第四條ニ該當スル者ハ前項所定書類ノ外醫師ノ診斷書其他ノ證憑書ヲ添付スヘシ

第二條　前條ニ依リ請求ヲ正當ト認ムルトキハ退隱料原簿（第二號樣式）ニ登錄シタル後退隱料證書（第三號樣式）ヲ交付ス

第三條　退隱料ヲ受クル者再ヒ職ニ就キタルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納スヘシ

第四條　退隱料ヲ受領セントスルトキハ每回退隱料證書ヲ提示スヘシ

但シ代人ヲ以テ受領セントスルトキハ委任狀ニ生存證明書ヲ添付スヘシ

第五條　退隱料ヲ受クル者條例第八條第九條ニ該當スルニ至リタルトキハ本人家族若クハ親族ヨリ其證書ヲ直ニ返納スヘシ

第六條　退隱料證書ヲ亡失シタル者ハ遲滯ナク其事由ヲ具ン届出スヘシ

前項ノ届出ヲ事實ト認メタルトキハ其證書ノ謄本ヲ交付ス

第七條　退隱料ヲ受クル者ハ印鑑届ヲ差出スヘシ爾後改印シタルトキ亦同シ

第八條　退隱料ヲ受クル者條例第十條ノ停止事由ノ發生シタルトキ及住所ヲ轉シタルトキハ其旨ヲ改氏名シタルトキハ退隱料證書竝ニ戸籍謄本ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

第一號樣式

退隱料請求書

本籍地
現住所　何　某

元職名　何

一　何年月日丸亀市何拜命何年月日退職　年月日生

此在職年數何年何ケ月

右退隱料條例第二條（第四條）ニ該當ノ者ニ有之候條相當退隱料支給相成度別紙戸籍謄本（及何々書類）相添此段請求候也

年　月　日

丸龜市長　何　某　殿

氏　名　印

第二號樣式

退隱料證書原簿

第　號	
原籍住所	原籍住所
氏名生年月日	元書記　姓　名　年月日生
就職年月日	年月日
退職年月日	年月日
勤續年月	何年何ケ月
退職現時俸給	何十何圓
退隱料年額	何　圓
證書下付年月日	年月日
備考	

第三號樣式

退隱料證書　第　號

退隱料年額金

年　月ヨリ起算

氏名

年　月　日生

本市有給吏員退隱料條例ニ依リ前記ノ退隱料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス

年　月　日

香川縣丸龜市長氏名　印

退職給與條例

（明治三十三年四月十四日條例第五號）

（改正）明治四十五年四月五日條例第十九號

第一條　本市有給吏員退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ一時金ヲ給與ス

一　在職滿二年以上ノ者ハ退職現時ノ月俸ノ半月分ニ在職年數ヲ乘シタル金額

二　在職中公務ノ爲メ重傷ヲ負ヒ又ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退職シタル者ハ現時月俸三月分

三　第一號ニ該當スル者第二號ノ事由ニ依ルトキハ各號ニ準シ計算シ之ヲ併合シタル金額

第二條　有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ其金額ヲ遺族ニ給與ス若シ遺族ナキトキハ死亡者ノ葬儀ヲ擔任スル者ニ給ス

一　在職滿二年未滿ノ者ハ現時ノ月俸二ケ月分

二　在職滿二年以上ノ者ハ前號ノ金額ニ第一條第一號ニ依リ之ヲ併合シタル金額

三　公務ノ爲メ傷痍ヲ負ヒ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタル者ハ現時ノ月俸四ケ月分ニ第一條第一號ヲ併合シタル金額

第三條　左ニ揭クル者ニハ一時金ヲ給與セス

一　滿六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　懲戒處分ニ依リ解職シタル者

第四條　在職年數ハ就職又ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職又ハ解職ノ月ヲ以テ終ル

但在職二年未滿ニシテ自己ノ爲メニ非ラスシテ退職シ再ヒ職ニ就キタルトキハ前後ノ年數ヲ通算ス

第五條　任期アル有給史員ニシテ前各條ニ該當スルトキハ市會ニ於テ一時金給與ノ金額ヲ定ムルモノトス

市吏員人員給料規程

（明治三十二年十月一告示第十一號）

明治四二十年三月告示第四號
明治四十四年三月三十一日告示第十號
大正元年八月告示第六號
大正二年三月一日告示第九號
大正三年三月一日告示第七號
大正六年五月告示第三十七號
大正八年四月十七日告示第二十七號
大正九年十月二十二日告示第七十二號
大正十五年十月二十一日告示第八十二號
昭和三年二月十七日告示第十六號

（改正）

第一條　市主事一名、技師一名、書記二十七名ヲ以テ定員トス

第二條　市技手ノ人員竝ニ使丁給仕ノ人員給料ハ每年度之レヲ定ム

第三條　主事、技師、書記、技手竝ニ附屬員ノ給料ハ左ノ範圍ニ依ル但他ノ公職ニ在ルモノハ最下級以下ノ俸給ヲ以テ採用スルコトヲ得

一、主事技師年俸九百圓以上二千五百圓迄

二、書記月俸二十五圓以上百二十圓迄

三、技手機關手月俸貳拾五圓以上百貳拾圓迄

四、助手、工手、監視、巡視、職業紹介所事務員雇月俸拾五圓以上五拾圓迄

第四條　主事、技師、書記、技手ノ人員ハ毎年度ノ俸給總算内ニ於テ之ヲ增減シ若ハ附屬員ノ給料ト彼此流用スルコトヲ得

附　則

本改正ハ昭和參年度ヨリ施行ス

吏員俸給支給規則

（明治三十二年十月六日告示第三號ノ内）

第一條　吏員ノ俸給ハ毎月二十二日（年俸ハ月割）日給ハ毎月末日ヲ以テ支給ス

但支給日休日ニ相當スル時ハ前日ニ繰上ケ支給ス

毎年十二月ハ二十日ニ繰上ケ日給ハ其當日迄ヲ支給ス

但出張巡廻等支給定日ニ係ルトキハ其月分前渡ヲナスコトヲ得

第二條　新任ハ就職ノ日ヨリ增俸ハ其月日ヨリ減俸ハ其翌日ヨリ起算シ日割ヲ以テ支給ス

第三條　廢職退職及死亡ノトキハ其月分俸給ノ全額ヲ支給ス

但自己ノ情願若クハ懲戒處分ニ依リタルモノハ其日迄ノ分日割ヲ以テ支給ス

第四條　解任ノ者事務引繼或ハ雜務取扱ノ爲メニ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ俸給ヲ支給ス

第五條　私事旅行其他ノ故障（自己病氣忌引ハ除ク）ニヨリ出勤セサルモノハ三十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ六十日後ハ俸給ヲ支給セス

第六條　病氣（轉地療養共）ニヨリ六十日後出勤セサルモノハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スル

モノトス

但職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第七條　第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ル時ハ第五條ニ始リ第六條ニ終レハ其間通算シ六十日後ハ俸給ヲ減シ又第六條ニ始マリ第五條ニ終レハ其間ヲ通算シ三十日後ハ俸給ノ半額ヲ減シ六十日後ハ俸給ヲ給セス

第八條　日割計算ノ法ハ年俸ハ十二分ノ一ヲ以テ一ケ月分トナシ月俸ト同シク其月ノ現日數ニ割リ計算スルモノトス

第九條　日給ハ出勤日數ニヨルモノトス

但一般ノ休暇日及公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ缺勤スルモノハ出勤日數ニ算入ス

旅費支給規程

（明治三十三年十二月告示第六號）

大正元年八月二十三日告示第八號
（改正）大正九年十月十四日告示第六十八號
昭和三年四月二十八日告示第四十九號

第一條　市吏員職務ノ爲メ旅行スルトキハ別表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　旅費ハ順路ニ依リ鐵道旅行ニハ汽車賃水路旅行ニハ船賃其他ノ旅行ハ陸路旅行トシ車馬賃ヲ支給ス但順路ニ依リ難キ場合ハ其經過シタル通路ニ依ル

第三條　宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第四條　市用ノ船車馬等ニテ旅行スルトキハ本規程ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス

第五條　旅行ノ性質又ハ地方ノ狀況ニ依リ定額ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ其實費ヲ支給シ別表ニ定ムル汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス

第六條　汽車賃船賃車馬賃ハ各其路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但合算上一位未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條　公務ノ都合ニ依リ市內ニ於テ人力車ヲ要スルトキハ實費ヲ支給ス

第八條　陸路ハ一里未滿鐵道十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第九條　旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張ニ於ケル滯在日數及途中止ムヲ得サル事由ノ爲メ要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第十條　新ニ任用ノ爲メ召喚シタルトキハ就職相當ノ旅費ヲ支給ス

附　則

第十一條　本規程ハ明治四十四年四月一日ヨリ施行ス

附　則　（大正九年六月十四日告示第六十八號附則）

本改正ハ發布ノ日ヨリ施行ス

施行前ヨリ引續キ旅行中ノ者ニ對スル旅費ハ施行ノ日マデノ旅行ニハ從前ノ別表ニ依リ施行ノ日ヨリ以後ノ旅行ニハ改正別表ニ依リ之ヲ支給ス

大正七年告示第四十九號市吏員旅費臨時增給規程ハ本改正施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別表

種別			汽車賃一哩	滊船賃一浬	車馬賃一里	宿泊料一夜	日當一日
市長	一等	縣內	八錢	八錢	七拾錢	五圓	貳圓
		縣外				七圓	四圓
助役技師 收入役主事	二等	縣內	七錢	七錢	六拾錢	四圓	壹圓五拾錢
		縣外				五圓	參圓
書記 技手 掃除監督	三等	縣內	六錢	六錢	五拾錢	參圓	壹圓
		縣外				四圓	貳圓
附屬員 掃除巡視	四等	縣內	參錢	五錢	四拾錢	壹圓五拾錢	七拾錢
		縣外				貳圓五拾錢	壹圓貳拾錢

市醫規程

（大正十一年十月四日告示第六十五號）

明治三十三年十一月告示第十號
（改正）明治四十二年三月告示第五號
大正元年八月告示第八號

第一條　本市ニ市醫ヲ置ク其定員ハ四名トス
但シ事務ノ都合上臨時增員スルコトアルベシ

第二條　市醫ハ市長之ヲ囑托ス其期間ハ貳ケ年トス
但シ市長ハ事務ノ都合ニ依リ何時タリトモ其囑托ヲ解クコトアルベシ

第三條　市醫擔任事務概目左ノ如シ

一　衛生思想ノ向上發展ニ關スルコト
二　傳染病及ヒ流行病ノ豫防救治ニ關スルコト
三　種痘ノ施術及ヒ檢診ニ關スルコト
四　トラホームノ豫防治療ニ關スルコト
五　非常事變ニ際シ現場ニ出張死傷者ノ救療ニ關スルコト

第六類　給與

六　醫治ヲ受ケ得サル赤貧病死者ノ治療及ヒ檢案ニ關スルコト

七　行旅病死者ノ治癒及檢案ニ關スルコト

八　前項ノ外市長ヨリ衛生上ニ關シ臨時指示スル事務ニ從事スルコト

第四條　市醫ハ市內衛生上ニ關スル意見ノ提出又ハ市長ノ諮問事項ニ對シテハ其都度答申スベシ

第五條　市醫疾病又ハ事故アリテ其事務ヲ取扱フコト能ハザルトキハ代理者ヲ定メ前以テ屆出ベシ

第六條　市醫ハ壹ケ年五拾圓以下ノ報酬ヲ給シ猶實務ニ從事シタル時ニ限リ其日數ニ應シ一日金貳圓乃至金拾圓ノ手當ヲ給ス

但シ特別ノ勤勞アルトキハ市會ノ決議ニ依リ慰勞金ヲ給スルコトアルベシ

第七條　市醫職務上ニ依リ出張ヲ要スルトキハ本市旅費支給規程別表二等ノ旅費ヲ支給ス

第八條　市醫職務ノ爲メ負傷又ハ疾病ニ罹リ終身業務ニ從事スヘカラサル場合又ハ死亡シタルトキハ市會ノ決議ニヨリ一時金ヲ給與ス

但シ傳染病ノ豫防救治ニ從事シ該病ニ感染シ又ハ之ガ爲メ死亡シタルトキハ本市傳染病救治手當規程ニ依リ手當ヲ給ス

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外勤吏員手當金支給規程

（大正十三年六月十三日告示第四十二號）

（改正）昭和三年四月廿八日告示第五十號

第一條　稅務事務ニ從事スル者ニシテ外勤スル者ニハ月額手當ヲ支給ス但シ一ケ月中勤務日數十日未滿ノ者ハ支給セス

第二條　手當金ハ每年豫算內ニ於テ其額ヲ定メ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第三條　手當金ノ支給ヲ受クル者他ノ職ニ轉シ又ハ出務セサルコト一ケ月中十日以上ニ渉ル者ハ日割計算ニ依リ支給ス

第四條　手當金ハ每月末日ニ之ヲ支給ス

第五條　本規程ニ定メタル者ノ外吏員俸給支給規則ヲ準用ス

別表

一等	二等	三等	四等
拾圓以內	七圓以內	四圓以內	貳圓以內

公園監視港灣巡視服制

（大正八年七月十日告示第三十九號）

（改正）大正十三年六月十三日告示第四十一號

服制表

上衣	地質	濃紺又ハ黒絨但シ夏ハ白小倉又ハ麻布
	製式	折襟脊廣形
	袖章	幅五分ノ黒七子（夏衣ハ白七子）繊毛線一條ヲ附ス
	釦釦	徑六分ノ圓形金色無地
袴	地質	上衣ニ同シ
	製式	普通長袴
帽	地質	黒又ハ濃紺絨
	製式	圓形ニシテ黒革ノ眼庇及支革ヲ附ス但シ夏ハ白布ヲ蓋フ
	徽章	金繍製櫻葉五枚抱合セ中央ニ銀繍市徽章及園（港）ノ字ヲ附シ帽ノ周圍ニ幅五分ノ黒七子織毛線一條ヲ附ス

外套	地質	黒絨
	製式	折襟隠釦長サ約二尺五寸以下トス
雨覆	地質	黒絨

被服貸與規程

（明治三十三年六月十八日告示第四十一號）

（改正）大正三年一月二十三日告示第二號
大正六年四月告示第三十號
大正八年七月十日告示第四十號
大正十五年十一月三十日告示第八十九號

第一條　汚物掃除吏員、公園監視、港灣巡視及給仕使丁、園丁、常工夫、掃除夫ヘ本規程ニ依リ被服ヲ貸與スルモノトス

第二條　公園監視、港灣巡視ヘ左ノ通リ貸與ス

品目	個數	保存期限
冬服	一組	滿二ケ年
夏服	一組	備一ケ年
帽	一個	滿一ケ年
外套	一着	滿二ケ年
靴	一足	滿一ケ年

但シ大正六年ニ限リ夏服二組ヲ貸與スルモノトス

汚物掃除監視吏員ヘ左ノ通リ貸與ス

但シシャツ、ズボン下、靴下、靴等ノ附屬品ハ一定ノ料金ヲ以テ給與ス

品目	個數	保存期限
冬服	一組	滿二ケ年
夏服	二組	滿一ケ年
外套 甲	一組	滿二ケ年
外套 乙	一個	滿一ケ年
帽		

第三條　市役所給仕ヘ左ノ紺色小倉服ヲ貸與ス

品目	個數	保存期限
冬服	一組	八ケ月
夏服	一組	八ケ月

市役所使丁ヘ左ノ小倉服ヲ貸與ス

但シ靴ハ一定ノ料金ヲ以テ給與ス

品目	個數	保存期限
冬服	一組	滿二ケ年
夏服	一組	滿二ケ年
帽	一個	滿二ケ年

學校使丁ヘ左ノ小倉服ヲ貸與ス

但シ靴ハ一定ノ料金ヲ以テ給與ス

品目	個數	保存期限
冬服	一組	滿二ケ年
夏服	一組	滿二ケ年
帽	一個	滿二ケ年

園丁、常雇工夫竝ニ汚物掃除夫ニ左ノ木綿紺色法被股引ヲ貸與ス

但シ法被ノ襟ニ市ノ徽章ト背面（園）（工）（掃）ノ頭字ヲ染出シトス

品目	個數	保存期限
法被	夏冬各一組	滿一ケ年以上
股引	同	同

第四條　着用季節冬服十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄夏服六月一日ヨリ其年九月三十日マデトス

第五條　轉免又ハ死亡ノトキハ返納セシムヘシト雖モ保存期限後六ケ月以上勤續ノモノニハ之ヲ給與ス

第六條　保存期限ヲ有スル服具ヲ汚損シ使用ニ堪ヘサラシメ又紛失セシモノアルトキハ調製價格ニ依リ月額トシ使用月數ニ係ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ辨償セシム

但職務上汚損セシモノハ此限ニアラス

第七條　修補及洗濯費自辨トス

傳染病救治手當規程

（改正）大正元年八月二十三日告示第八號　（明治三十二年十一月十三日告示第十一號ノ內）

第一條　市史員及雇員（醫師看護婦小使人夫等ヲ含ム）ニシテ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者該病ニ感染シ又之レカ爲メ死亡セシトキハ左表ニ照シ手當金ヲ給ス

但名譽職員ハ一等ニ準シ其他給料又ハ報酬ヲ受ケサルモノ及四等ニ相當スルモノヽ手當金額ハ市參事會ニ於テ本人ノ勤務ニヨリ適宜之ヲ定ムルモノトス

第二條　手當金ハ療治料給助料弔祭料遺族扶助料ノ四種トシ病毒ニ感染シタル者ヘハ療治料ヲ給シ治療シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス

第三條　療治料ハ自宅治療病院治療トヲ問ハス之ヲ給スルモノトス

第四條　遺族扶助料ハ從來其死者ニヨリ生活シ來ル家族アルモノニ限リ之ヲ給ス

第五條　弔祭料ハ其死者獨身ナレハ親戚其他ノ緣故ノモノ（死體引取人）ヘ給ス

第六條　退職給與條例第二條第三號ニヨリ給與ヲ受クヘキモノハ本規程ノ弔祭料ヲ給セス

左表

俸給			手當金			
等級	月給又ハ報酬	日給	療治料	給助料	弔祭料	遺族扶助料
一等	參拾圓以上	壹圓五拾錢以上	一日壹圓五拾錢	七拾五圓	貳拾圓	百五拾圓
二等	貳拾圓以上	壹圓以上	一日壹圓貳拾錢	六拾圓	拾五圓	百貳拾圓
三等	拾圓以上	五拾錢以上	一日壹圓	五拾圓	拾貳圓	百圓
四等	拾圓未滿	五拾錢未滿	一日八拾錢以下四拾錢以上	四拾圓以下貳拾圓以上	拾圓以下五圓以上	八拾圓以下四拾圓以上

消防組員及水防組員臨時手當

（改正）大正九年六月五日香川縣告示第三〇七號

（明治四十四年三月十八日市參事會議決）

職名＼區別	防禁ニ從事シタルトキ		儀式訓練其他必要ニ依リ召集セラレタルトキ	
	六時間マテ	六時間以上一時間增每	六時間マテ	六時間以上一時間增每
組頭	七拾錢	拾五錢	五拾錢	五錢
小頭	六拾錢	拾錢	四拾錢	四錢
消防手	五拾錢	八錢	參拾錢	參錢

丸龜消防組員へ給與被服保存期間

（明治三十三年十一月一日二回市參事會決定）
（同三十六年一月十五日二回市參事會決定）
（改正）大正十五年十一月十五日

品目	職名	保存期限
洋服（夏冬）	組頭、小頭	五ケ年
帽徽章共	組頭、小頭、消防手	五ケ年
外套	組頭、小頭	拾ケ年
靴	組頭、小頭	三ケ年
足袋	消防手	一ケ年
頭巾	同	七ケ年
法被	同	五ケ年
股引	同	同

腹帶	當	消防手	五ケ年
	同		同

給仕使丁常雇人夫等一時給與規程

（大正二年二月告示第五號）

第一條　一時給與金ハ左ノ區別ニ依リ給與ス

一　滿五年以上六年未滿ノモノハ退職當時ノ給料一ケ月分トシ六年以上滿一年毎ニ給料月額三分ノ一宛ヲ增ス

二　職務ノ爲メ重傷ヲ負ヒ又ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退職シタル者ハ現時ノ給料月額三ケ月分

三　第一號ニ該當スルモノノ第二號ノ事由ニ依ルトキハ各號ニ準シ之ヲ併合シタル金額

第二條　職務ノ爲死亡シ又ハ在職三年以上ニシテ死亡シタルトキハ一時救助料ヲ遺族ニ給ス其金額ハ五年未滿ノ者ハ死亡當時ノ給料月額一ケ月半分五年以上ノ者ハ三ケ月分トス

第三條　職務ノ爲傷痍又ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給與ス其金額ハ一日金八十錢以內ニ於テ市長之ヲ定ム

第四條　職務ノ爲メ傷痍又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルモノニハ第二條第三條給與ノ外弔祭料トシテ死亡當時ノ給料二ケ月分ヲ遺族ニ給與ス但シ遺族ナキトキハ死亡者ノ葬儀ヲ擔任スル

者ニ給ス

第五條　左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ一時金ヲ給與セス

一　滿六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニヨリ退職シタルトキ

二　懲戒ノ爲メ解職セラレタルトキ

第六條　第一條第二條第四條ノ給料月額ハ日給ノモノハ三十日分ヲ以テ算出ス

第七條　在職年數ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル

名譽職員費用辨償並旅費支給規程

（昭和三年三月一日告示第三一號）

第一條　市會議長同副議長名譽職市參事會員市會議員ニハ費用辨償トシテ左ノ歳費ヲ支給ス

但シ一人ニシテ二個以上ノ職務ヲ有スルモノニハ其多額ノ分ノミヲ支給ス

市會議長	歳費	金百五拾圓
市會副議長	歳費	金百圓
市會議員	歳費	金六拾圓
市參事會員	歳費	金百圓

第二條　歳費ハ年額ヲ兩分シテ毎年三月、九月ニ於テ支給ス　但シ歳費年額ハ就退職ノ場合ニ於テハ就職ノ月ヨリ退職ノ月迄月割計算ヲ以テ支給ス

前項支給期日迄ニ一回モ出席セサルモノニハ其ノ期分割額ヲ支給セサルモノトス

第三條　市制第八十三條ニ依ル臨時又ハ常設委員ノ勤務及區長又ハ區長代理者ニシテ召集ニ應シ勤務者ニ對シテハ一日金壹圓五拾錢ヲ支給ス

但シ一人ニシテ同日中ニ數個ノ職務ニ從事シタルトキハ一個分ノミヲ支給スルモノトス

第四條　名譽職員其職務ノ爲メ旅行ヲナストキハ別表ノ旅費ヲ給ス

第五條　本規程ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

名譽職員費用辨償規程

別　表

市會議長副議長ハ市吏員旅費支給規程ノ一等市參事會員、市會議員、委員ハ同上二等ノ例ニヨル

丸龜市水道係傭人諸給與規程

（大正十五年十一月三十日告示第八十八號）

第一條　本規定ニ於テ傭人ト稱スルハ水道業務ノ爲メ雇傭スル左ノ傭人ヲ謂フ

一、鉛工、鉛工見習、鐵工、鐵工見習、其他必要ノ諸職工

二、工夫、工夫見習

三、助　手

四、常傭人夫

第二條　傭人ノ給料ハ日給トシ左ノ範圍ニ依リ之ヲ支給ス

職　工、工　夫　　日額貳圓以上五圓以下

常傭人夫　　日額壹圓以上貳圓以下

職工見習、工夫見習、助手　　日額參圓以下

第三條　給料ハ勤務日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ左ノ場合ニハ出勤セサルモ給料ヲ支給ス

一、休　暇　日

二、職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ市醫ニ於テ休養ヲ要スルモノト診斷シタルトキ

第四條　工事ノ都合ニ依リ別ニ規定スル執務時間外早出居殘若ハ臨時夜間ニ於テ勤務セシメタル場合ハ一時間毎ニ一日給料額ノ十分ノ一ヲ加給ス其午後十時ヨリ翌日午前六時迄ハ更ニ十分ノ一ヲ增加ス

但シ一時間ニ充タサル端數ニ對シテハ加給セス

第五條　水中其ノ他困難ナル作業ニ從事シタル者ニ對シテハ一時間毎ニ一日給料額ノ十分ノ一ヲ加給ス其ノ特別ニ困難ナルモノト認メタル場合ハ更ニ十分ノ一ヲ增加スルコトヲ得

第六條　給料ハ毎月十五日及末日ノ二回ニ其ノ前半ケ月分ヲ支給ス

第七條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七類　財務

學校基本財産蓄積條例

（明治三十八年八月二十五日條例第十一號）
（改正）明治四十一年十二月二十八日告示第二十八號
（改正）大正八年三月一日告示第十六號

第一條　本市ハ本條例ニ依リ學校基本財産ヲ蓄積ス

第二條　基本財産ハ明治二十八年度ヨリ蓄積ヲ開始シ其金額貳萬圓ニ達スルトキハ第三條第一號及第二號ノ蓄積ヲ廢止ス

第三條　基本財産ノ蓄積ハ地方學事通則第十條第一項ニ掲クルモノ、外左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一　學校ニ屬スル雜收入（古紙竝ニ糞尿代其他不用品賣却代等）

二　歲計剩餘金三分ノ一以內

第四條　市ノ財産ヨリ生スル收入ハ市會ノ議決ニヨリ學校基本財産ニ加入スルコトアルヘシ

第五條　每年度ノ蓄積金ハ第三條第四條ノ前々年度實收額ニ基キ歲出豫算臨時部ニ一款ヲ設ケ之ヲ整理ス

第六條　基本金ハ特別會計ト爲ス

第七條　基本財産ハ左ノ方法ヲ以テ保管ス

一　國債證券有價證券ノ買入　二　大藏省預金ニ預入

第八條　從來蓄積セシ學校基本財産ハ第三條ノ金額中ニ算入ス

第九條　公債ヲ起シ又ハ天災地變等ニ依リ市費徴收ニ困難アル時ハ市會ノ議決ヲ經テ蓄積ヲ停止スルコトヲ得

市有不動産管理規程

（明治四十年二月六日告示第三號）

（改正）明治四十五年三月二十九日告示第八號

第一條　此ノ程規ニ於テ市有不動産ト稱スルハ市ノ所有ニ屬スル土地建物ヲ云フ

第二條　市有不動産ハ市長之ヲ管理ス

第三條　市有不動産中基本財産ニ屬セザルモノト各別ニ臺帳ヲ製シ其所在種類數量價格所有ノ開始其他異動ヲ明記スルヒノトス

第四條　市有不動産ハ直接公用ニ供スルモノ、外相當使用料ヲ徴シ之ヲ貸付ス

但使用ノ目的公益事業ナルトキハ料金ヲ徴收セサルコトアルヘシ

料金一ケ年豊捨圓以内使用期限五ケ年以内ノモノハ管理者ニ於テ貸付スルコトヲ得

前項貸付ニ必要ナル事項ハ契約ノ當時管理者之ヲ定ム

第五條　山林ハ必要ニ應シ樹木ノ補植又ハ成木ニ障害アル小枝雜木竹伐採下草路枝採取等ノ手入ヲ爲シ其産物ハ賣却スルモノトス

第六條　市有不動産ノ使用料徴收ハ左ノ各項ニ依ル年ヲ以テ貸付シタルモノハ甲年四月ヨリ

乙年三月マテヲ一期トシ全年分ヲ甲年四月中又ハ五月以後ニ貸付シタルモノハ物件使用前ニ徴收ス月又ハ日ヲ以テ貸付シタルモノハ物件使用前ニ徴收ス年貸ニシテ一ケ年ニ滿タサルモノハ月割トシ月貸ハ初月終月ヲ問ハス全月分ヲ徴收ス

第七條　市有不動產ヨリ生スル產物ノ賣捌代ハ物件交付前ニ徴收ス

第八條　市有不動產ヨリ生スル收入ハ總テ市ノ歲入トス

物品購入規程

（明治四十三年十二月二十六日告示第三十八號）

（改正）大正元年八月二十三日告示第八號

一　需用品ニシテ見積金高貳拾圓未滿ノモノハ入札法ニヨラス貳拾圓以上四拾圓未滿ハ二名以上ノ指名入札トシ四拾圓以上ハ汎ク入札法ニヨリ購入スルモノトス

但事急施ヲ要シ又ハ入札者ナキトキ若ハ再三入札ニ付スルモ豫定價格ニ超過スル場合ハ臨機ノ取扱ヲ爲スモノトス

二　左ニ揭クルモノハ前項ノ金高ニ超過スルモ入札ニ付セス便宜購入又ハ借入ルヽモノトス

一　物質ニヨリ製造者ヨリ直接購入ヲ要スル物品

一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ノ購入又ハ借入

一　土地家屋ノ買收又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造ニ限リアルモノ

一　囚徒又ハ貧民ノ製造品購入

欠

MISSING

市金庫事務取扱銀行ヨリ徴スル擔保ノ種類價格及程度

（大正六年三月三十一日參事會議決）
（同年四月六日許可）
（改正）昭和二年七月廿八日參事會議決

本市金庫事務取扱銀行ヨリ徴スル擔保ノ種類價格及程度左ノ如シ

一　擔保トシテ金二萬圓ニ相當スル國債證券ヲ常時市ニ提供セシムルモノトス

二　擔保ノ種類及價格ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　四分利付國債證券　　額面百圓ニ付金八拾圓

一　五分利付國債證券　　額面百圓ニ付金九拾圓

三　保管金額カ擔保額ヨリ超過シ若クハ擔保ノ時價カ前項ニ定メタル價格ヨリ低下シタルトキハ直ニ增擔保ヲ提供セシム

丸龜市財務取扱規程

（改正）大正六年三月三十一日告示第十九號
昭和二年七月三十日告示三九號

第一章　總則

第一條　本市ノ財務ニ關スル出納事務ハ明治四十四年內務省令第十五號市町村財務規程及特別ノ規程アルモノヽ外本規程ニヨリ取扱フモノトス

第二條　各係ハ毎年十月三十一日マデニ次年度ニ要スル收支豫算調書ヲ市町村歲入出豫算調製式ニヨリ調製市長ニ提出スヘシ收支豫算書ヲ提出後更正若クハ追加ノ必要ヲ生シタルトキハ其都度前項ニ準シ之カ手續ヲナスヘシ數年度ニ亘リ繼續支出ヲ要スル事業ニ係ル收支豫算調書ニハ次年度以降各年度ノ收支計算表ヲ同時ニ提出スヘシ

第三條　各係ニ於テハ其所管ニ係ル豫算支出ヲ明瞭ナラシムル爲メ豫算差引簿ヲ調製スヘシ

第四條　徵稅令書、納額告知書、納付書、領收書證書其他收支ニ關スル證憑書類ニ金錢ヲ記スル數字ハ一、二、三、十、廿、卅ノ字ヲ用ヒスシテ壹、貳、參、拾、貳拾、參拾ノ字ヲ用ユヘシ

第五條　出納ニ關スル帳簿其他ノ證憑書類中文字ノ正誤ヲナサントスルトキハ更ニ正誤文字ヲ記シ原字ニ二條ノ抹線ヲ施シ尚ホ讀ミ得ヘキ字體ヲ存シ帳簿ニ關シテハ主任者之ニ捺印シ證憑ニ關シテハ正當本人ヲシテ捺印セシムヘシ若シ記帳ノ數字ニ誤謬アルコトヲ他日發見シタルトキハ其際事由並ニ差額ヲ記シ其誤謬個所ノ欄外又ハ摘要欄ニ年月日正誤ト朱書スヘシ

前項ノ正誤ニシテ金錢其他物件ノ數量ニ係ルモノハ其金數字ヲ改書スヘシ

第六條　豫算款內各項ノ金額流用又ハ市制第百三十二條第三項ニ依ル一時借入金等ノ議決ヲナシタルトキハ市長ハ其議決書ノ謄本ヲ收入役ニ交付スルモノトス

第二章　帳簿

第七條　本市財務ニ關スル出納事務ヲ處理スル爲メ左ノ帳簿ヲ設備スヘシ

一、市稅徵收簿
二、稅外收入簿
三、歲入(出)內譯簿
四、歲入歲出外出納書留簿
五、金庫現金出納簿
六、基本財產臺帳
七、財產臺帳
八、市債臺帳

前項帳簿ノ外必要アルトキハ適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第一項市稅徵收簿及稅外收入簿ニハ卷首ニ總括表ヲ附スルモノトス

各帳簿ハ便宜之ヲ合冊又ハ分冊スルコトヲ得

第八條　市長ニ於テ歲入出豫算及追加更正ノ謄本ヲ收入役ニ交付スルトキハ歲入出豫算通知簿ニ登記シテ之ヲ通告スルモノトス豫算各項ノ流用及一時借入金ノ議決ヲナシタルトキ又ハ豫備費補充ヲ爲ストキ亦同シ

第九條　收入役前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ歲入出內譯簿ニ豫算表記ノ科目順序ニ從ヒ豫算及增減額ヲ記入スヘシ

第三章　收入

第十條　徵稅令書、納額告知書、納付書ヲ發付シタルトキハ市長ハ直ニ收入役ニ對シ其收入ヲ命令シ當該徵收簿又ハ收入簿ヲ交付スルモノトス

前項ノ命令後ニ於テ調定額ノ增減ヲナシ又ハ翌年度所屬ニ延期若クハ缺損ヲナストキハ其都度命令ノ手續ヲナスモノトス

市歲入ニシテ上屋使用料又ハ滯納處分ニ據リ徵收金ノ類ニシテ直チニ市金庫ニ納付セシムルコト得サル場合ハ收入役又ハ處分執行吏員ヨリ拂込書ヲ添ヘ納入スヘキモノトス

第十一條　收入役第二十七條ニ依リ市金庫ヨリ徵稅令書納額告知書納付書拂込書受納票等ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ徵收簿及收入簿ニ領收日附印ヲ押捺シ徵稅令書、納額告知書、納付書、拂込書、受納票等ハ取扱ヒタル日毎ニ科目別トシ納期毎ニ區分集計ヲ付シ當該年度出納閉鎖後ハ豫算表記載ノ科目順序ニ之ヲ合綴シ表紙ヲ付シテ保存スルモノトス

前項ノ領收日附印ノ押捺ニハ納期內納入ノモノニハ赤肉納期限後納入ノモノニハ黑肉ヲ用ユヘシ

第十二條　收入役ハ前條ノ令書、告知書、納付書、拂込書、受納票等ニヨリ其日ノ收入ノ結果ヲ歲入內譯簿、金庫現金出納簿ニ登記シ收入日計表ヲ調製シ之ヲ市長ニ報告スルモノトス

第十三條　市稅其他ノ諸收入金ヲ期限內ニ完納セサルモノアルトキハ收入役ハ其氏名及種目金額ヲ調查シ速ニ市長ニ報告スヘシ

但シ徵收簿又ハ收入簿ヲ以テ報告ニ代フルコトヲ得

前項報告後ニ於テ納付ヲ受ケタルトキハ其都度報告スルモノトス

第十四條　市長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ市制第百二十八條又ハ第百三十一條ニ依リ處分シ其結果ヲ徵收簿ニ記入シテ收入役ニ其收入ヲ命令シ私法上ニ關スル收入ニ付テハ當該法令ノ規定ニヨリ遲滯ナク督促ノ手續ヲナスモノトス

第十五條　過誤納金ハ納入ヨリ還付請求アリタルトキハ市長ニ於テ收入役ニ還付方ヲ命令スルモノトス

收入役前項ノ還付ヲ了シタルトキハ徵收簿其他關係簿書ニ年月日及事由ヲ記載スルモノト